

令和7年度  
マリンワーカー事業  
(竜串海域公園地区保全対策業務)  
報告書

令和8年3月

環境省 中国四国地方環境事務所



## 目 次

1. 業務概要	
1-1. 用語	1
1-2. 業務担当者	1
2. サンゴ生育状況等のモニタリング	2
2-1. スポットチェック調査	2
2-2. 定点写真撮影	9
2-3. 海域の物理環境のモニタリング	32
2-3-1. SPSS 調査	32
2-3-2. 水温の連続観測	40
2-4. オニヒトデ駆除の実施	49
3. 保全の担い手育成のための取組	52
3-1. 市民参加型の保全体制構築に向けた取組	52
4. まとめ	67
4-1. サンゴの生息環境の現状について	67
4-2. 食害生物の影響	68
4-3. 保全の担い手育成のための取組	69



## 1. 業務概要

7月2日に、①作業実施時期及び実施人数 ②緊急連絡先（警察、病院など緊急時の連絡先）を記載した業務計画書を作成し、中国四国地方環境事務所四国事務所土佐清水自然保護官事務所担当官（以下「担当官」という。）に提出した。

業務の実施にあたって、業務着手時（7月2日）、業務途中（9月11日）及び報告書とりまとめ時（3月3日）に担当官と打合せを実施した。打合せ後は速やかに、打合せ記録簿を作成し、担当官に送付した。

業務にあたっては、以下の安全対策を実施することを業務計画書で担当官に示した。

- ・調査の実施に際しては、当該海域を熟知した潜waters資格保有者が従事すること。
- ・駆除に際しては、当該海域におけるオニヒトデ等の探索、駆除方法等を熟知した潜waters資格保有者が従事しスクーバ潜水により取り上げるとともに、搬出作業の実施・補助を行うこと。
- ・調査及び駆除作業従事者に対し、事故防止のための講習を実施するとともに、緊急連絡先を配布すること。

### 1-1. 用語

本報告書で使用する用語のうち、科学的に定義されておらず、一般的に用法が確立されていない語については、平成18年度竜串地区自然再生事業海域調査業務報告書の定義による。

### 1-2. 業務担当者

目崎 拓真（黒潮生物研究所 研究所長）

総括・調査計画・調査実施・資料解析・報告書作成

戸篠 祥（黒潮生物研究所 主任研究員）

調査実施・資料解析・報告書作成

古井戸 樹（黒潮生物研究所 研究員）

調査実施・資料解析・報告書作成

Shashank keshavmurthy（黒潮生物研究所 研究員）

調査実施・資料解析・報告書作成

辻元 ましろ（黒潮生物研究所 研究員補）

調査実施・資料解析・報告書作成

## 2. サンゴ生育状況等のモニタリング

竜串湾では、サンゴ群集は中核の自然資源かつ、地域活性にとっても重要な資源であり、近年のオニヒトデによる食害が長期的に継続しており、サンゴ群集への影響が懸念されている。本調査は、竜串湾におけるイシサンゴ類の被度変化や攪乱状況（斃死、部分死、病変、オニヒトデやサンゴ食巻貝による食害、台風など波浪による剥離や破損）の把握、その他環境変化等を解析し、要因等を考察することを目的として実施された。

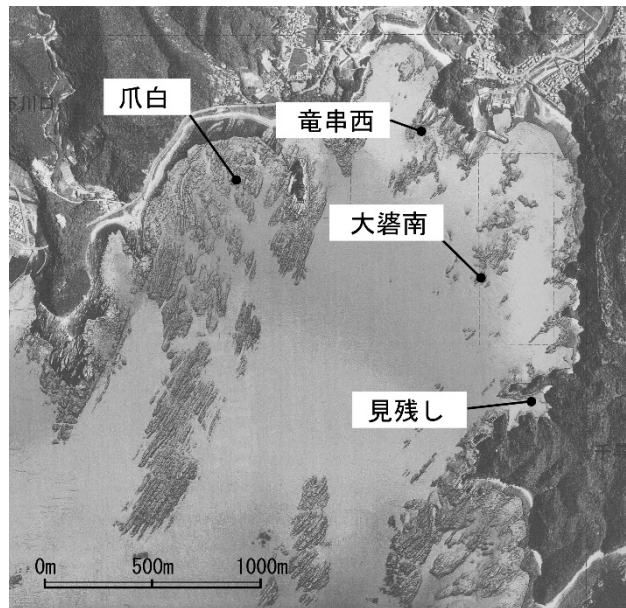


図 2-1-1. 調査地点

### 2-1. スポットチェック調査

#### a) 方法

モニタリングサイト 1000（サンゴ礁調査）スポットチェック法によるサンゴ礁調査マニュアル（平成 25 年 7 月環境省自然環境局生物多様性センター）に基づきスポットチェック法による調査を行った。スポットチェック法は 15 分間のスノーケリング又はスキューバによって海底面の状況を目視把握する、簡易的なサンゴ礁調査手法で調査範囲は 50 m×50 m の範囲である。

<調査項目>

- ・ サンゴの被度（海底を占める生存サンゴの割合）
- ・ サンゴの生育型（優占するサンゴの生育型。卓状ミドリイシ優占など）
- ・ 5 cm 以下のミドリイシ属サンゴの加入度
- ・ 大型卓状ミドリイシ 5 群体の平均サイズ
- ・ 攪乱の記録（白化、オニヒトデ、サンゴ食巻貝、病気の有無など）
- ・ 大型定着性魚類（30 cm 以上のブダイ類、ハタ類、ベラ類など）
- ・ その他特記事項

調査地点は爪白、竜串西、大濬南、見残しの計 4 か所（図 2-1-1）で、7 月 9 日に調査を実施した。これまで竜串湾内ではモニタリングサイト 1000 の中で、スポットチェック調査

が年1回9月～12月頃に実施されている。モニタリングサイト1000の調査地点は今回の調査と爪白、竜串西、大濬南が共通の調査地となっており、今回の結果と昨年度の結果を比較してサンゴの生育状況を考察した。

## b) 結果

スポットチェックの結果を表2-1-1に、被度の推移を図2-1-2、調査時の写真を章末の資料2-1に示した。地点ごとの観察結果の概要を以下にまとめる。

### <観察結果の概要>

- ① 爪白：サンゴの生育型（以下、生育型）は卓状ミドリイシ優占型で生サンゴの被度（以下、被度）は20%だった。令和6年10月に行われたモニタリングサイト1000の結果（被度30%）と比較して、若干の被度の低下が認められた。爪白では岩盤上部に卓状のクシハダミドリイシが高い被度で優占していたが、浅場は斃死群体が目立った。岩盤斜面や垂直部などでは、被覆状や塊状サンゴ類が優占していた。オニヒトデやオニヒトデによる食痕は確認されなかったが、サンゴ食巻貝による食害が少数見られた。
- ② 竜串西：生育型は多種混成で、被度は10%だった。令和6年10月のモニタリングサイト1000の結果（被度30%）と比較して、被度が大きく低下した。2～4mの岩盤上では主に卓状のクシハダミドリイシ類が優占し、それ以深では塊状、被覆状、葉状のサンゴが多かった。今年度は浅場の卓状ミドリイシは8割方斃死していたが、深場の多種混成の群集は健全であった。
- ③ 大濬南：生育型はミドリイシ、エンタクミドリイシ、クシハダミドリイシなどが混成する卓状ミドリイシ優占で、被度は20%だった。令和6年10月のモニタリングサイト1000の結果（被度30%）と比較して、浅場のミドリイシの多くが斃死したことにより被度が低下した。昨年同様、オニヒトデは確認されなかったが、サンゴ食巻貝による食害が確認された。また、感染症が散見された。
- ④ 見残し：生育型は特定類（シコロサンゴ）優占で、被度は40%だった。昨年度業務の結果（40%）と比較して、被度の変化は認められなかった。シコロサンゴ群落の上部はマイクロアトールとなっており、群落の外側には、スギノキミドリイシの比較的小さな群落が点在している。ハマサンゴの一部で感染症が見られた。

表 2-1-1. スポットチェック調査結果

地名	観察開始時刻	調査手段	サンゴ被度 (%)	白化率 (%)				サンゴ生育型	ミドリイシ加入度	大型卓状ミドリイシ平均値 (cm)	オニヒトデ			サンゴイ食巻貝		病気 (%)	大型魚類 (尾数)
				サンゴ全体白化率	死滅率	ミドリイシ白化率	死滅率				15分観察個体数	サイズ (cm)	サイズ範囲	被食率 (%)	食巻段階		
爪白	10:10	SCUBA	20	0	0	0	0	卓ミド	0	86			0	II	<5	0	
竜串西	10:50	SCUBA	10	0	0	0	0	多種混成	0	38			0	II	<5	<5	
大岩南	9:45	SCUBA	20	0	0	0	0	卓ミド	0	72			0	II	<5	<5	ブダイ4
見残し	9:15	SCUBA	40	0	0	0	0	シコロサンゴ優占	0	20			0	I	0	<5	ブダイ1 アカハタ2 ユカタハタ7

サンゴイ食巻貝食巻段階

I:食痕(新しいものは目立たない)

II:小さな食痕や食害部のある群体が散見される

III:食痕は大きく、食害部のある群体が目立つが、数百個体以上からなる密集した貝集団は見られない

IV:鮫死群体が目立ち、数百個体以上からなる密集した貝集団が散見される

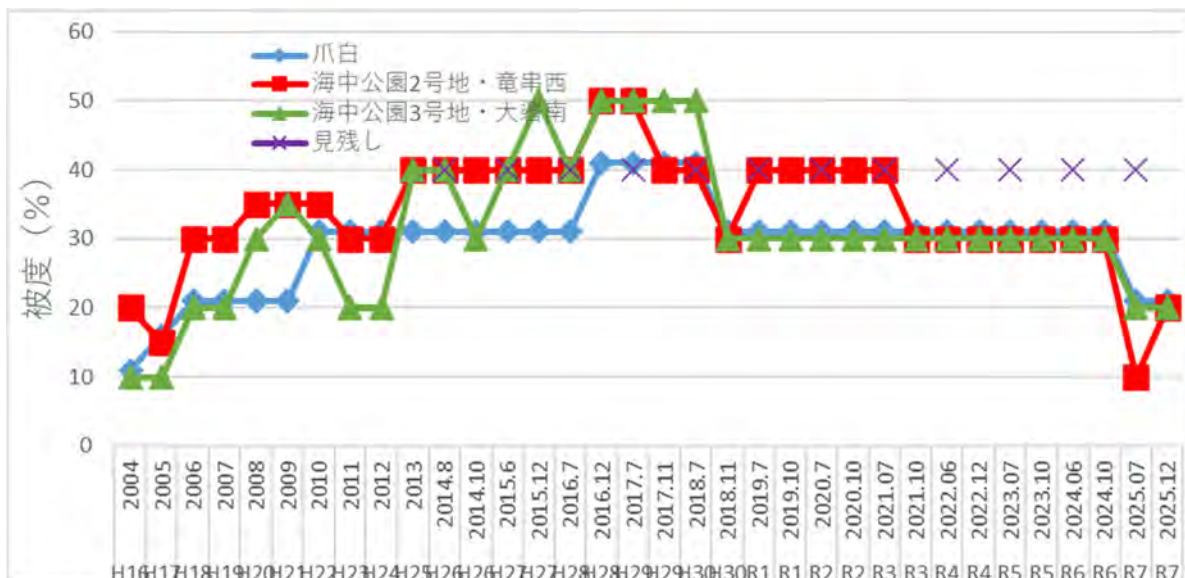





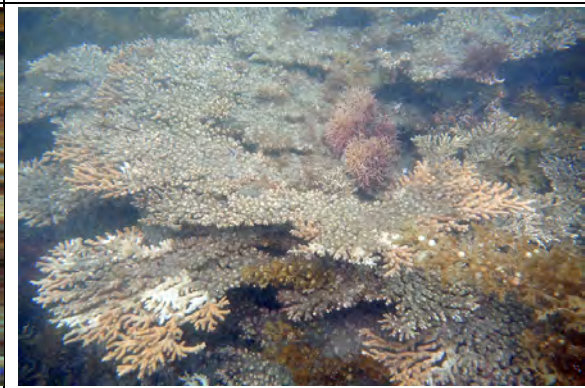


図 2-1-2. 被度変化の推移（平成 26 年 8 月、27 年 6 月、28 年 7 月、29 年 7 月、30 年 7 月、令和元年 7 月、令和 2 年 7 月、令和 3 年 7 月、令和 4 年 6 月、令和 5 年 6 月、令和 6 年 6 月、令和 7 年 7 月以外はモニタリングサイト 1000 のデータを引用）

令和 7 年度は四国沿岸に上陸した台風は 15 号のみで、スポットチェック調査地点では台風の影響は小さく、令和 7 年度 12 月のモニタリングサイト 1000 の調査では、サンゴの剥離や破損はあまり見られなかった。そのため、今年度は昨年度に引き続き台風による被害は軽微だったものの、昨年度の高水温による白化の影響で見残しを除いて被度の低下が確認された。全地点におけるスポットチェックでオニヒトデは確認されず、オニヒトデ記録数は昨年度に引き続き 0 個体/15 分状態だった。しかしながら、12 月に行ったモニタリングサイト 1000 においては、大碓で 5 個体/15 分、爪白で 3 個体/15 分のオニヒトデが確認されていることに加え、竜串湾内全域でオニヒトデ駆除が行われており、オニヒトデの食害は継続しており、依然注意が必要である。


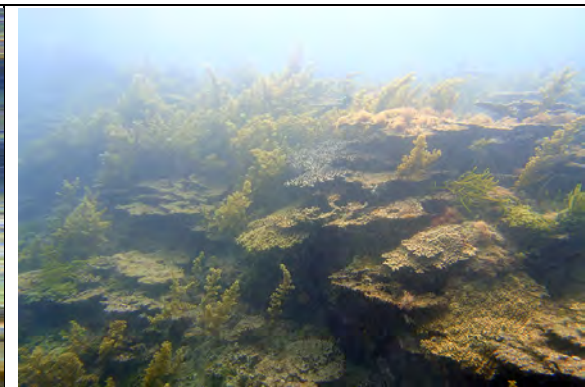
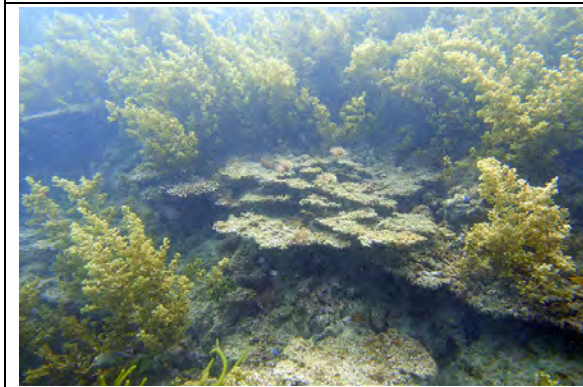



資料 2-1. スポットチェック調査写真

各写真のキャプションに記されている番号は、以下の事項を示す

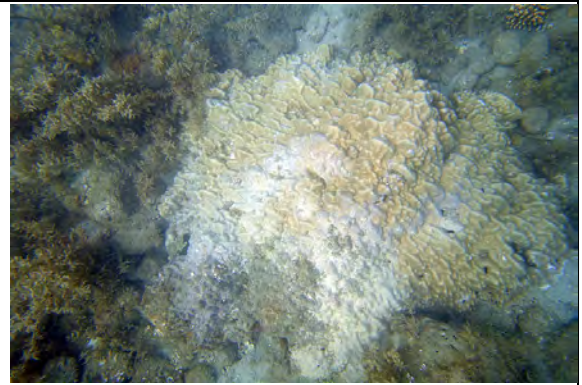
① 地点名 ②調査年月日 ③サンゴの生育型 ④生サンゴ被度 ⑤その他の特記事項

	
<p>①：爪白 ②：令和7年7月9日 ③：卓ミド優占 ④：20% ⑤：卓状ミドリイシ優占群集</p>	<p>①：爪白 ②：令和7年7月9日 ③：卓ミド優占 ④：20% ⑤：浅場のミドリイシは斃死しているものが多い</p>
	
<p>①：爪白 ②：令和7年7月9日 ③：卓ミド優占 ④：20% ⑤：サンゴ食巻貝による食害</p>	<p>①：竜串西 ②：令和7年7月9日 ③：卓ミド優占 ④：10% ⑤：卓状ミドリイシ優占群集</p>
	
<p>①：竜串西 ②：令和7年7月9日 ③：卓ミド優占 ④：10% ⑤：病気のみドリイシが多い</p>	<p>①：竜串西 ②：令和7年7月9日 ③：多種混生 ④：30% ⑤：浅場の卓上ミドリイシは壊滅状態</p>

①地点名 ②調査年月日 ③サンゴの生育型 ④生サンゴ被度 ⑤その他の特記事項

	
<p>①：竜串西 ②：令和7年7月9日 ③：多種混生 ④：30% ⑤：深場の多種混成の群集は健康</p>	<p>①：大濬南 ②：令和7年7月9日 ③：多種混生 ④：20% ⑤：卓状ミドリイシ優占群集</p>
	
<p>①：大濬南 ②：令和7年7月9日 ③：多種混生 ④：20% ⑤：浅場のサンゴは壊滅し、ヒイラギモクが多い</p>	<p>①：大濬南 ②：令和7年7月9日 ③：多種混生 ④：20% ⑤：マンジュウヒトデによる食害</p>
	
<p>①：大濬南 ②：令和7年7月9日 ③：多種混生 ④：20% ⑤：サンゴ食巻貝による食害</p>	<p>①：見残し ②：令和7年7月9日 ③：卓ミド優占 ④：40% ⑤：シコロサンゴ優占の群集</p>

①地点名 ②調査年月日 ③サンゴの生育型 ④生サンゴ被度 ⑤その他の特記事項



①：見残し ②：令和7年7月9日  
③：卓ミド優占 ④：40%  
⑤：マイクロアトールにヒイラギモクが繁茂している

①：見残し ②：令和7年7月9日  
③：卓ミド優占 ④：40%  
⑤：ハマサンゴに病気が確認された

## 2-2. 定点写真撮影

調査地点の景観変化を把握するため、平成 27 年度より景観定点の写真撮影を実施している。令和 7 年度も同様の 5 地点で定点の撮影を行い、令和 6 年度（令和 7 年 1 月 17 日撮影）の画像と比較を行った。

### a) 方法

#### 撮影方法

写真は基点より 4 方向で角度を測定し、基点からの高さを 0.5 m 又は 1 m としてデジタルカメラで記録を行った。

#### 調査地点

今年度の調査は、透明度の良くなる冬季の令和 8 年 1 月 9 日に実施した。

調査地点は地元での利用等の情報収集及びこれまでのモニタリング地点をもとに、平成 27 年度に選定された 5 ヶ所で行った（図 2-2-1）。爪白、竜串西、大濬南、見残しではサンゴ群集のスポットチェック調査を行っている範囲内に定点景観写真の調査地が選定されており、赤屋根前では他の調査地点と異なりスギノキミドリイシが占める枝状ミドリイシ優占群集が分布していた地点が、竜串湾内での枝状優占群集の稀少性から定点景観写真の調査地に選定されている。以下に基点の情報、撮影方法、撮影方位の角度（北を 0°とする）を記載する。

#### ①爪白（卓状ミドリイシ優占～多種混成の群集）（図 2-2-2）

基点 GPS : 32°47'4.10"N、132°51'17.70"E

設置水深 : 5.8 m

海底から高さ : 0.5 m の位置で撮影

撮影方位 : ①358° ②88° ③178° ④268°

#### ②赤屋根前（スギノキミドリイシ優占群集）（図 2-2-3）

基点 GPS : 32°47'9.65"N、132°51'17.87"E

設置水深 : 2.6 m

海底から高さ : 1.0 m の位置で撮影

撮影方位 : ①13° ②103° ③193° ④283°

#### ③竜串西（クシハダミドリイシ優占群集）（図 2-2-4）

基点 GPS : 32°47'11.92"N、132°51'48.24"E

設置水深 : 5.0 m

海底から高さ : 1.0 m の位置で撮影

撮影方位 : ①355° ②85° ③175° ④265°

④大碗（卓状ミドリイシ優占群集）（図 2-2-5）

基点 GPS：32°46'52.00"N、132°52'2.69"E

設置水深：4.0 m

海底から高さ：1.0 m の位置で撮影

撮影方位：①24° ②114° ③204° ④294°

⑤見残し（シコロサンゴ優占群集）（図 2-2-6）

基点 GPS：32°46'30.25"N、132°52'8.54"E

設置水深：2.7 m 杭の先端から撮影

撮影方位：①331° ②81° ③171° ④261°

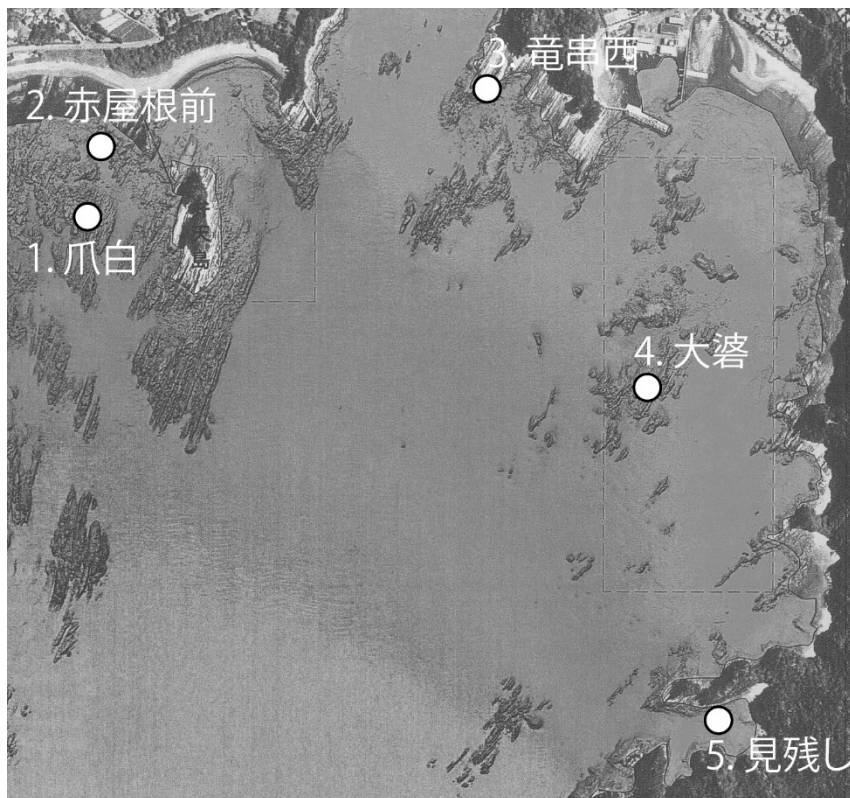


図 2-2-1. 定点撮影の調査地点

b) 各地点のサンゴ群集と前年度の定点写真との比較

定点で撮影した令和 6 年度（R6）と令和 7 年度（R7）の写真を目視で比較した。各地点のサンゴ群集と変化の概況について以下に示す。また、定点の比較画像を図 2-2-2～図 2-2-6 に示す。

① 爪白 (図 2-2-2)

爪白では岩盤や岩の上面でクシハダミドリイシを中心とした卓状ミドリイシ優占の群集が見られ、斜面、垂直面、海底にある転石や岩盤上ではサザナミサンゴ科やオオトゲサンゴ科のサンゴなど多種混成のサンゴ群集が見られた。岩盤の上で浅くなる、爪白1の中央や左側、爪白4の中央～右側でサンゴの斃死が確認された。

② 赤屋根前 (図 2-2-3)

赤屋根前では令和元年度までは基点の西側の奥に高被度のスギノキミドリイシの群集が見られたが、令和2年度に赤屋根前1のスギノキミドリイシ群集がほぼ全て消失し、現在も回復していない。基点の東と南の転石帯では低被度の多種混成の群集が見られた。赤屋根前3の昨年まで成長を続けていた中央のミドリイシが斃死した。

③ 竜串西 (図 2-2-4)

竜串西では基点の北、東、西側の岩盤上に高被度のクシハダミドリイシを中心とした卓状ミドリイシ優占の群集が、南側ではサザナミサンゴ科のサンゴなど多種混成の群集が見られた。竜串西1～4全方位で、ほぼ全てのミドリイシが斃死した。

④ 大濤 (図 2-2-5)

大濤では平成30年度まで岩盤上部や斜面部に高被度のミドリイシ、クシハダミドリイシ、エンタクミドリイシが混成した卓状ミドリイシ優占の群集が存在したが、令和元年度に調査範囲すべてで卓状ミドリイシ類の大規模な剥離や破損が見られた。大濤1～4全方位の岩盤上のミドリイシはほぼ全て斃死した。

⑤ 見残し (図 2-2-6)

見残し湾では大型のシコロサンゴが優占する特定類優占群集が見られ、南側のみ底質が砂礫でほとんどサンゴは見られなかった。平成30年度に剥離した見残し2の左のシコロサンゴは、今年度も剥離した先で成長中である。見残し1の右側から見残し2の左側に見られるカタトサカは、今年度は群体の大きさが縮小傾向であった。その他、シコロサンゴの群落に成長が見られたが、全体的に大きな変化は無かった。



R6 爪白 1 (358°)



R7 爪白 1 (358°)

图 2-2-2. 景观定点写真 (爪白)



R6 爪白 2 (88°)



R7 爪白 2 (88°)

図 2-2-2. 景観定点写真 (爪白つづき)



R6 爪白 3 (178°)

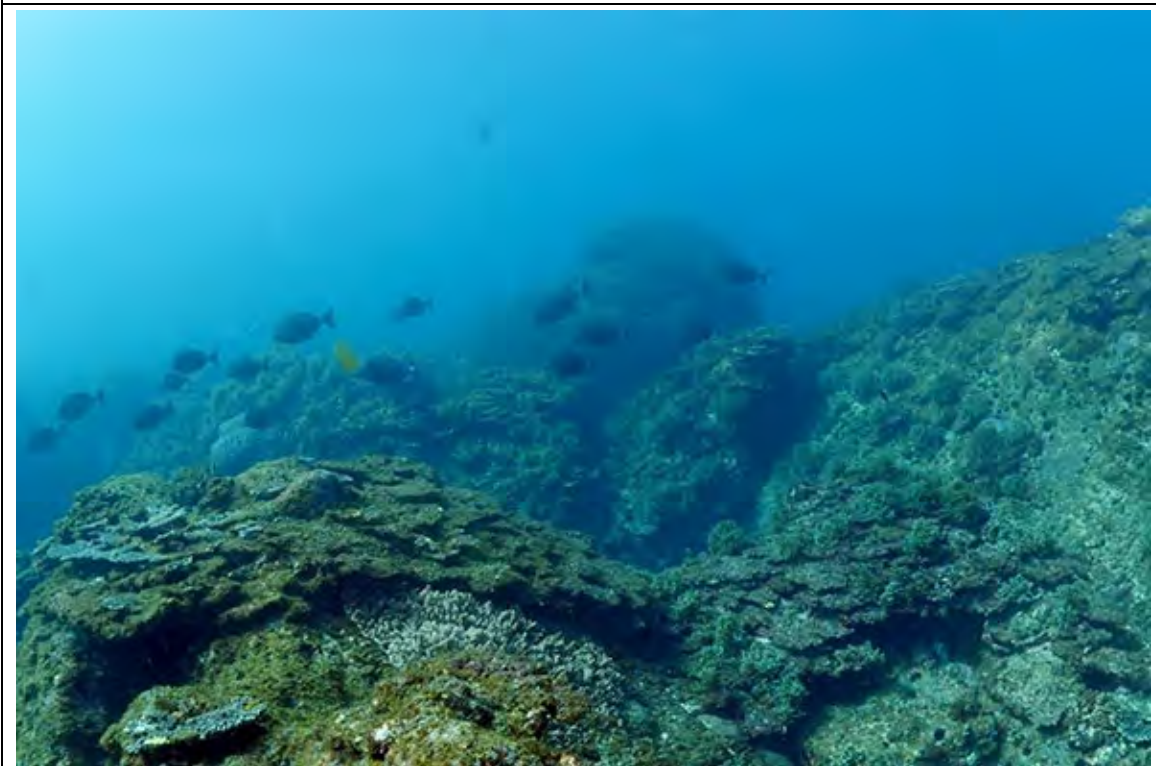


R7 爪白 3 (178°)

図 2-2-2. 景観定点写真 (爪白つづき)



R6 爪白 4 (268°)



R7 爪白 4 (268°)

図 2-2-2. 景観定点写真 (爪白つづき)



R6 赤屋根前 1 (13°)



R7 赤屋根前 1 (13°)

图 2-2-3. 景观定点写真 (赤屋根前)



R6 赤屋根前 2 (103°)



R7 赤屋根前 2 (103°)

図 2-2-3. 景観定点写真 (赤屋根前つづき)

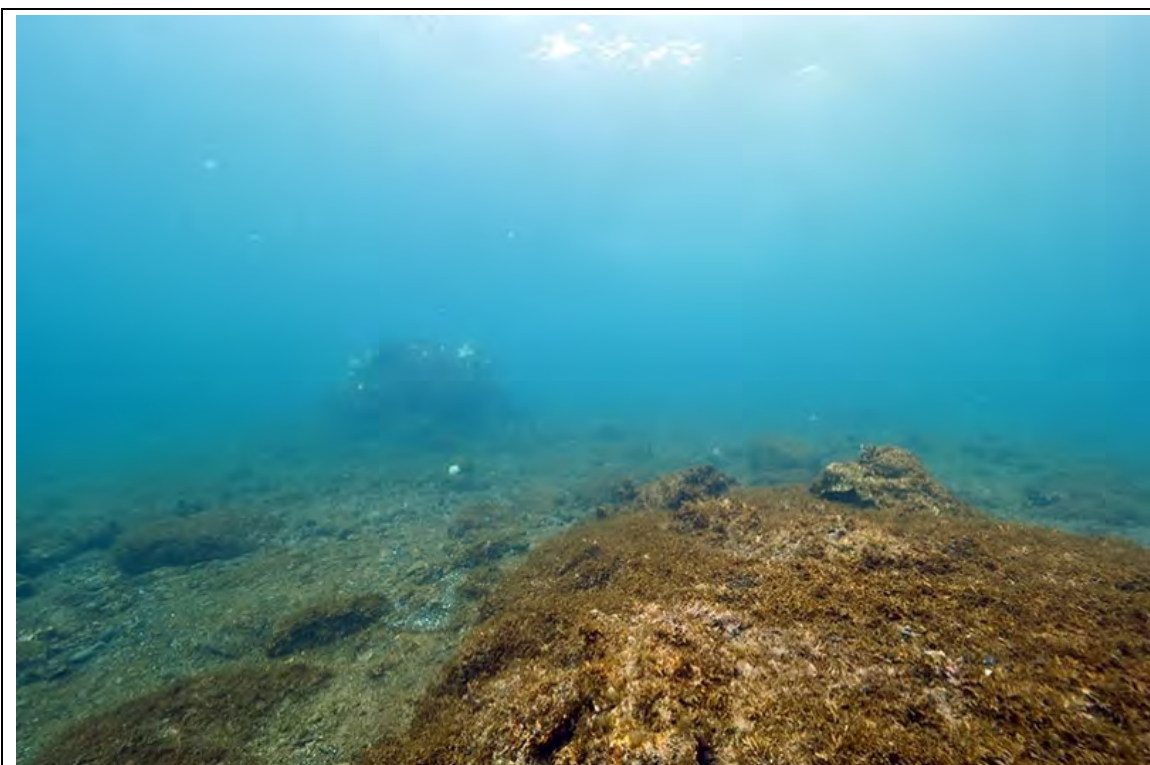


R6 赤屋根前3 (193°)



R7 赤屋根前3 (193°)

図 2-2-3. 景観定点写真 (赤屋根前つづき)



R6 赤屋根前 4 (283°)



R7 赤屋根前 4 (283°)

図 2-2-3. 景観定点写真 (赤屋根前つづき)



R6 竜串西 1 (355°)



R7 竜串西 1 (355°)

图 2-2-4. 景观定点写真 (竜串西)



R6 竜串西 2 (85°)



R7 竜串西 2 (85°)

図 2-2-4. 景観定点写真 (竜串西つづき)



R6 竜串西 3 (175°)



R7 竜串西 3 (175°)

図 2-2-4. 景観定点写真 (竜串西つづき)

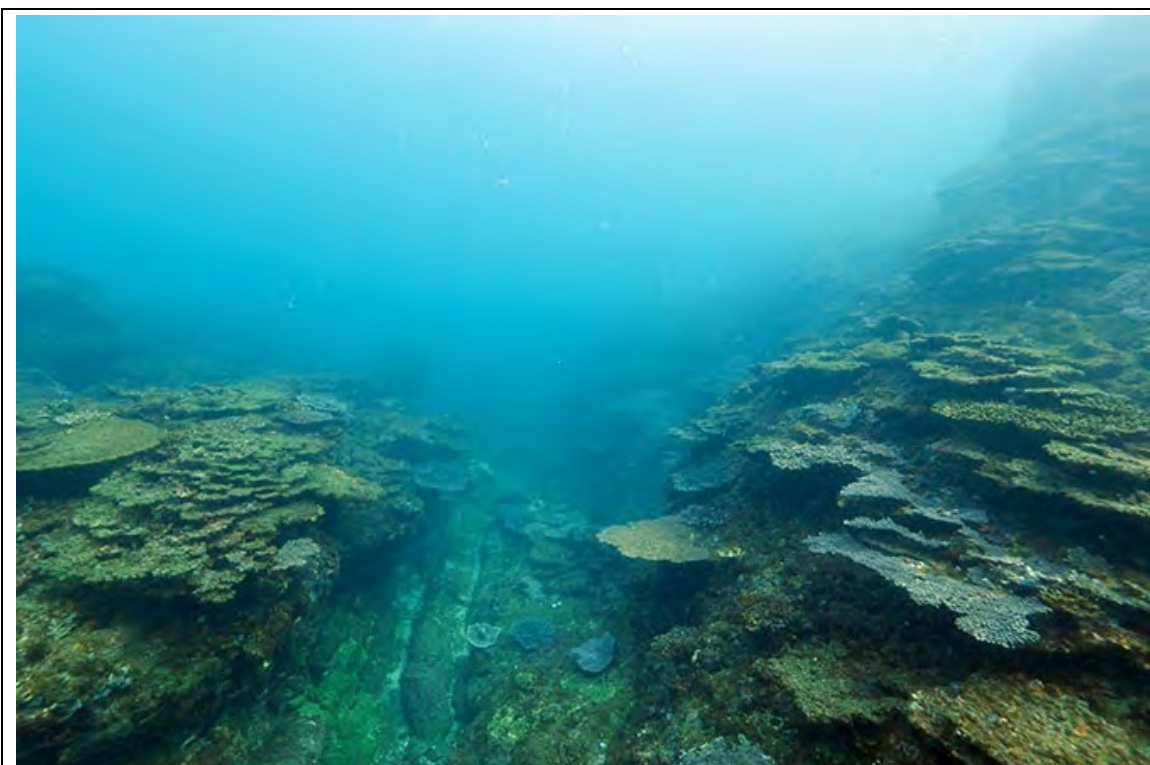


R6 竜串西 4 (265°)



R7 竜串西 4 (265°)

図 2-2-4. 景観定点写真 (竜串西つづき)

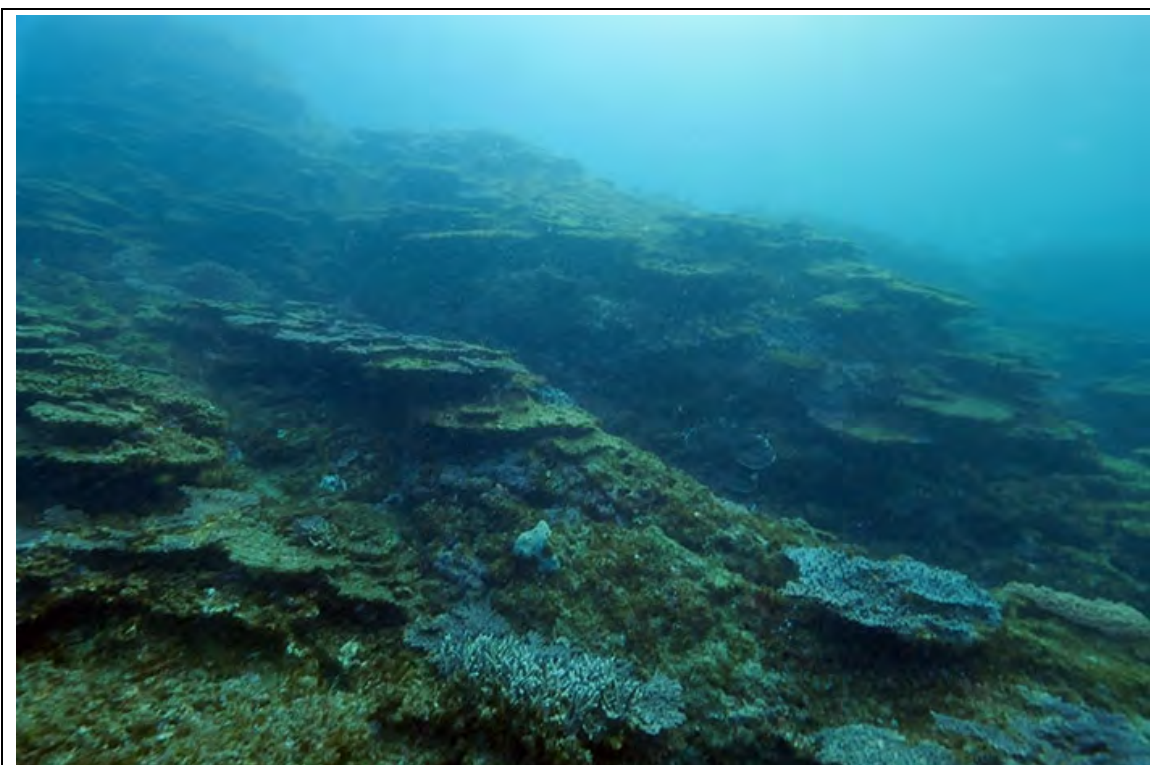


R6 大濬 1 (24°)



R7 大濬 1 (24°)

图 2-2-5. 景观定点写真 (大濬)



R6 大礮 2 (114°)



R7 大礮 2 (114°)

図 2-2-5. 景観定点写真 (大礮つづき)



R6 大礮 3 (204°)



R7 大礮 3 (204°)

図 2-2-5. 景観定点写真 (大礮つづき)



R6 大礫 4 (294°)



R7 大礫 4 (294°)

図 2-2-5. 景観定点写真 (大礫つづき)



R6 見残し 1 (331°)



R7 見残し 1 (331°)

図 2-2-6. 景観定点写真（見残し）



R6 見残し 2 (81°)



R7 見残し 2 (81°)

図 2-2-6. 景観定点写真（見残しつづき）



R6 見残し 3 (171°)



R7 見残し 3 (171°)

図 2-2-6. 景観定点写真 (見残しつづき)



R6 見残し 4 (261°)



R7 見残し 4 (261°)

図 2-2-6. 景観定点写真（見残しつづき）

## 2-3. 海域の物理環境のモニタリング

### 2-3-1. SPSS 調査

#### a) 目的

有藻性イシサンゴ類（以下サンゴ）の生育に影響を与える懸濁物質の指標として、沖縄島で実績のある SPSS（底質中懸濁物質含量）簡易測定法を用いて、竜串湾における底質中の懸濁物含量を測定し、サンゴ群集への影響を評価した。

#### b) 方法

図 2-3-1 に示した湾内 4 地点（爪白、竜串西、大落南、見残し）において令和 7 年 7 月 6 日、12 月 2 日と令和 8 年 1 月 9 日に全 4 地点の各地点年 3 回、底質の採取を行い、大見謝（2003）の SPSS 簡易測定法を用いて SPSS の測定を行った。

試料の採取は SCUBA 潜水によって行い、各地点で 500 ml のプラスチック製蓋付きサンプル瓶を用いて海底堆積物の表層部分（深さ約 5 cm まで）から底質を採取した。得られた試料を研究室に持ち帰り、2 mm のふるいで礫や

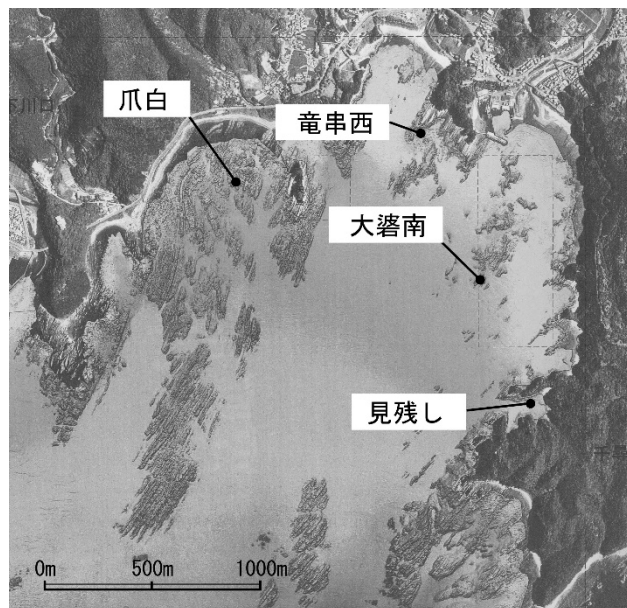


図 2-3-1. SPSS 調査地点

貝殻片等の大きい夾雑物を取り除き、懸濁物が沈殿するまで静置したのちに上澄みを捨て検体とした。この検体をメスシリンダーに適量量り取り、500 ml になるまで水道水を加えメスアップし、次にこれを激しく振り混ぜ懸濁させたのち、60 秒間静置した。こうして得られた懸濁水の透視度を 30 cm 透視度計で測定し、透視度の値と検体の量および希釈率から SPSS 測定値 ( $\text{kg}/\text{m}^3$ ) を算出した。

$$C = \{(1718 \div T) - 17.8\} \times D \div S$$

C : SPSS 測定値（底質中の赤土等の含有量 ( $\text{kg}/\text{m}^3$ ))

T : 透視度 (cm)

S : 測定に用いた試料量 (ml)

D : 希釈倍 = 500 / 分取量

### c) 結果

各調査地点における SPSS の測定値を表 2-3-1 に示した。なお、SPSS は対数正規分布するため、表中の平均値は算術平均ではなく幾何平均を用いた。

表 2-3-1. 令和 7 年度の各調査地点における SPSS 測定値

地点	SPSS (kg/m <sup>3</sup> )				
	R7 年		R8 年	平均	最大
	7 月 9 日	12 月 2 日	1 月 9 日		
爪白	65.2	74.0	5.1	29.0	74.0
竜串西	12.3	19.6	45.5	22.2	45.5
大碇南	9.7	3.9	10.5	7.3	10.5
見残し	32.6	12.3	29.5	22.8	32.6

各地点の概況について以下に示した。

- ① 爪白：爪白地先の海域には広く岩礁が発達しており、海底は起伏に富み、湾内でもっとも規模の大きいサンゴ群集が見られる。比較的波あたりの強い場所で、低気圧や台風の接近・通過時などには強い波が発生する。底質の採取は爪白海岸の弁天島よりにある双子岩と呼ばれる干出岩の南、水深約 7 m 付近で行った。SPSS の値は 7 月に 65.2 kg/ m<sup>3</sup> (ランク 6a)、12 月に 74.0 kg/ m<sup>3</sup> (ランク 6a) と高い値を示したが、1 月に 5.1 kg/ m<sup>3</sup> (ランク 4) と低下した。
- ② 竜串西：海域公園地区 2 号地 (竜串) の西側 (桜浜側) の端近くにあたる、水深約 6 m の地点で底質を採取した。周辺は櫛の歯状の入り組んだ地形となっており、水深 3 m 以浅ではミドリイシ属が多く、海底付近では塊状、被覆状のサンゴが多くみられる。SPSS の値は 7 月に 12.3 kg/ m<sup>3</sup> (ランク 5a)、12 月に 19.6 kg/ m<sup>3</sup> (ランク 5a) と低かったが、1 月に 45.5 kg/ m<sup>3</sup> (ランク 5a) と高い値を示した。
- ③ 大碇南：海域公園地区 3 号地内の大碇の南にある岩礁の南西端、水深約 12 m の地点で底質を採取した。SPSS の値は 7 月に 9.7 kg/ m<sup>3</sup> (ランク 4)、12 月に 3.9 kg/ m<sup>3</sup> (ランク 3)、1 月に 10.5 kg/ m<sup>3</sup> (ランク 5a) と年間を通して低い値で推移した。
- ④ 見残し：海域公園地区 4 号地内の見残し湾内にあるシコロサンゴの巨大群落の西側 (湾口側)、水深約 3 m の地点で底質を採取した。開口部の狭い小湾状の地形で、波あたりは静穏である。周辺の海底にはシルト混じりの砂礫が堆積している。SPSS の値は 7 月に 32.6 kg/ m<sup>3</sup> (ランク 5b) と高い値を示し、12 月に 12.3 kg/ m<sup>3</sup> (ランク 5a) と低下したが、1 月に 29.5 kg/ m<sup>3</sup> (ランク 5a) と若干上昇した。

平成 16～令和 7 年度における SPSS 測定値を表 2-3-2 に、推移を図 2-3-2 に示した。ここでは今年度調査した 4 地点のほか、平成 23 年度まで継続的に SPSS の測定を行った他の地点の結果も合わせて示した。表の色分けは、大見謝 (2003) の SPSS ランクに基づき、サンゴ群集に影響が出始めるランク 5b (30～50 kg/m<sup>3</sup>) 以上を太字で示した。ランク 6～8 までは背景色の黒が濃いほどランクが高い。さらに、平成 21 年度の報告書で示された、サンゴ群集の健全成長の目安である SPSS の年間最高値 100 kg/m<sup>3</sup> 以下、年間平均値 50 kg/m<sup>3</sup> 以下を勘案し、ランク 6a (50～100 kg/m<sup>3</sup>) ランク 6b (100～200 kg/m<sup>3</sup>) を設定した。

今年度の SPSS 測定値は爪白で高い傾向が見られ、その他 3 地点は平年通りであった。7 月に爪白で 65.2 kg/ m<sup>3</sup> (ランク 6a)、12 月に 74.0 kg/ m<sup>3</sup> (ランク 6a) と高い値を示したが、1 月に低下した。

今年度、爪白にて 7 月と 12 月の SPSS ランクが例年より高い値を示した理由として、5 月と 7 月に竜串湾沿岸 (三崎) における月ごとの降水量 (平年比) で平年より高い値を示したことから (それぞれ 165.1%、103.0%) (過去 70 年間 ; 気象庁 HP)、降雨による土砂の流入の影響を受けた結果と考えられる。

#### <参考> 大見謝 (2003) による SPSS ランクの定義

ランク	SPSS(kg/m <sup>3</sup> )	底質状況その他参考事項
1	0-0.4	水中で砂をかき混ぜてもほとんど濁らない。 白砂がひろがり生物活動はあまり見られない。
2	0.4-1	水中で砂をかき混ぜても懸濁物質の舞い上がりを確認しにくい。 白砂がひろがり生物活動はあまり見られない。
3	1-5	水中で砂をかき混ぜると懸濁物質の舞い上がりが確認できる。 生き生きとしたサンゴ礁生態系が見られる。
4	5-10	見た目ではわからないが、水中で砂をかき混ぜると懸濁物質で海が濁る。 生き生きとしたサンゴ礁生態系が見られる。透明度良好。
5a	10-30	注意して見ると底質表層に懸濁物質の存在がわかる。 生き生きとしたサンゴ礁生態系の S P S S 上限ランク。
5b	30-50	底質表層にホコリ状の懸濁物質がかぶさる。 透明度が悪くなりサンゴ被度に悪影響が出始める。
6	50-200	一見して赤土等の堆積がわかる。底質攪拌で赤土等が色濃く懸濁。 ランク 6 以上は、明らかに人為的な赤土等の流出による汚染があると判断。
7	200-400	干潟では靴底の模様がくっきり。赤土等の堆積が著しいがまだ砂を確認できる。 樹枝状ミドリイシ類の大きな群体は見られず、塊状サンゴの出現割合増加。
8	400-	立つと足がめり込む。見た目は泥そのもので砂を確認できない。 赤土汚染耐性のある塊状サンゴが砂漠のサボテンのように点在。

<引用文献>

大見謝辰男. 2003 SPSS 簡易測定法とその解説. 沖縄県衛生環境研究所報, 37: 99-104.

気象庁ホームページ. <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> 2026年1月20日情報  
取得

表 2-3-2. 平成 16～令和 7 年度における SPSS 測定値の一覧（単位：kg/m<sup>3</sup>）

	日付	爪白	弁天島東	桜浜	竜串西	竜串東	旧大濬南	大濬南 (旧大濬沖)	見残し
H16	5/26	<b>37.8</b>		2.6	<b>107.4</b>	<b>81</b>	<b>46.2</b>		
	6/28	<b>73.7</b>	<b>164.3</b>	1.7	<b>174</b>	<b>71.9</b>	<b>51</b>	<b>50.1</b>	
	7/28	<b>42.9</b>	<b>125</b>	25.8	<b>111.4</b>	<b>83.3</b>	<b>52.8</b>	<b>306.4</b>	<b>88.3</b>
	9/30	<b>54.2</b>	<b>127.6</b>	<b>84.5</b>	<b>171.5</b>	<b>125</b>	<b>47.7</b>		<b>105.5</b>
	10/7	<b>46.2</b>	<b>113.4</b>	1.7	<b>162</b>	<b>109.4</b>	<b>61.3</b>		<b>89.7</b>
	11/4	<b>58.9</b>	<b>111.4</b>	25.1	<b>214.8</b>	<b>65.2</b>	<b>63.8</b>		<b>141.9</b>
	12/22	<b>78.8</b>	<b>125</b>	27.1	<b>157.6</b>	<b>174</b>	<b>63.8</b>	<b>651.6</b>	<b>122.5</b>
H17	1/27	<b>135.2</b>	<b>111.4</b>	3.7	<b>231.2</b>	<b>79.3</b>	<b>85.7</b>	<b>954.5</b>	<b>162</b>
	3/1	<b>53.7</b>	<b>81</b>	5.5	<b>109.4</b>	<b>88.3</b>	<b>59.6</b>	<b>313.8</b>	<b>240.3</b>
	3/24	27.7	<b>103.9</b>	8.1	<b>231.2</b>	<b>73.6</b>	<b>95.6</b>		<b>118.2</b>
	5/23	<b>40.5</b>	<b>96.6</b>	21.5	<b>277.4</b>	<b>87.6</b>	<b>85.4</b>	<b>200.5</b>	<b>221.2</b>
	7/23	<b>33.8</b>	<b>61.6</b>	3.6	<b>197.2</b>	<b>107.4</b>	<b>62.3</b>	<b>95.4</b>	<b>157.6</b>
	9/22	26.3	<b>97.5</b>	<b>151.4</b>	<b>294.9</b>	<b>323.9</b>	<b>153.4</b>	<b>709.7</b>	<b>197.2</b>
	11/23	<b>72.8</b>	<b>76.2</b>	9.5	<b>135.2</b>	103.2	<b>31.5</b>	<b>166.6</b>	<b>111.9</b>
H18	1/23	<b>59</b>	<b>47</b>	2.9	<b>182.1</b>	<b>73.7</b>	<b>70.1</b>	<b>51.9</b>	<b>103.7</b>
	3/21	21.7	20.6	<b>36.4</b>	<b>155.4</b>	<b>60.3</b>	<b>41.1</b>	<b>68.4</b>	<b>71.9</b>
	5/31			1.1	<b>311.5</b>	<b>76.7</b>	14.3	6.8	<b>173.4</b>
	7/27	<b>73.7</b>	<b>98.6</b>	1.8	<b>126.8</b>	<b>35</b>	15	16.9	<b>58.3</b>
	9/28	<b>150.4</b>	<b>71.9</b>	1.7	<b>169</b>	<b>43.5</b>	<b>30.5</b>	15	<b>107.4</b>
	11/30	<b>58.9</b>	<b>41.1</b>	3.4	<b>58.9</b>	<b>51.6</b>	26.8	25.1	<b>52.8</b>
H19	1/28	<b>69.2</b>	<b>70.1</b>	5.3	<b>231.2</b>	<b>51.6</b>	<b>57.1</b>	18.1	<b>132</b>
	3/26	4.3	<b>82.1</b>	2.9	<b>46.2</b>	<b>32.6</b>	17.1	<b>73.7</b>	<b>124.6</b>
	5/23	10.1	<b>76.7</b>	11	<b>95.4</b>	<b>63</b>	17.7	10.6	<b>167</b>
	7/24	<b>41.1</b>	<b>67.6</b>	27.1	<b>65.2</b>	<b>43.5</b>	13.7	<b>37.8</b>	<b>117.8</b>
	9/22	17.9	<b>42.9</b>	2.8	<b>126</b>	26.7	4.7	23.5	<b>110.6</b>
	11/15	13.1	27.4	1.9	<b>62.3</b>	<b>37.8</b>	10.4	3.9	<b>38.9</b>
H20	1/28	5.9	<b>54.7</b>	3	<b>50.1</b>	16.1	5.4	5.4	14.2
	3/12	2.6	14.1	1.6	<b>79.9</b>	10.6	13.9	4.8	<b>54.2</b>
	5/23	26.8	<b>30.5</b>	8.3	<b>170.2</b>	23.3	23.3	<b>44.2</b>	<b>30.8</b>
	10/7	<b>41.7</b>	<b>145.6</b>	10.9	<b>167</b>	<b>53.7</b>	10.3	9.1	<b>56.7</b>
	11/17	13.9	<b>60.9</b>	8	<b>161.1</b>	<b>32.2</b>	<b>100.3</b>	18.9	<b>74.7</b>

表 2-3-2. 続き。平成 16～令和 7 年度における SPSS 測定値の一覧（単位：kg/m<sup>3</sup>）

	日付	爪白	弁天島東	桜浜	竜串西	竜串東	旧大濬南	大濬南 (旧大濬沖)	見残し
H21	1/8	8.2	<b>53.2</b>	6.9	<b>187.6</b>	<b>36.4</b>	22.3	23.1	20.1
	3/10	3.8	17.3	5.2	<b>88.4</b>	<b>40.9</b>	24.1	17.4	<b>54.7</b>
	5/12	8.4	<b>45.5</b>	10.7	<b>64.5</b>	<b>77.7</b>	12.3	21.5	<b>85.7</b>
	7/23	1.9	<b>57.8</b>	1	<b>57.1</b>	14	11.1	<b>79.9</b>	22.1
	9/24	11.9	12.2	3.5	<b>40.9</b>	6.5	1.5	4.5	4.6
	11/24	4.7	<b>58.3</b>	2	20.5	19.5	3	14.9	<b>92.4</b>
H22	2/3	5.1	<b>35.6</b>	1.9	<b>31.1</b>	8	1.4	2.9	<b>102</b>
	3/7	6.6	<b>30.8</b>	0.6	<b>67.1</b>	9.3	16.9	3	<b>74.7</b>
	5/28	4.6	<b>43.4</b>	6.8	<b>114.2</b>	15.4	15.3	14.9	<b>250.1</b>
	9/21	10.7	<b>84.5</b>	3.5	<b>147.9</b>	21.4	35.9	16.3	<b>82.1</b>
H23	1/12	1.6	<b>235.7</b>	1.4	<b>83.3</b>	12.1	8	2	43.5
	5/16	9.3	<b>195.5</b>	2.9	<b>62.9</b>	15.4	4.8	6.7	<b>214.4</b>
	10/12	<b>73.8</b>	<b>49.3</b>	3.5	21.1	<b>39.8</b>	8.8	5.8	60.9
H24	1/18	<b>59</b>	<b>69.2</b>	3.6	<b>100.2</b>	26.6	19.8	<b>254.9</b>	<b>112</b>
	6/27	21.2			<b>77.7</b>			<b>197.2</b>	<b>138.7</b>
	9/26	7.8			<b>82.1</b>			<b>68.4</b>	<b>65.2</b>
H25	1/18	5.4			18.3			1.7	<b>32.6</b>
	7/26	9.9			16.3			8.1	<b>41.3</b>
	10/18	4.4			3.2			2	<b>79.9</b>
H26	1/15	2.7			15.7			2.7	29.8
	7/26	<b>151.4</b>			<b>58.9</b>			12	<b>49.3</b>
	8/21	24.8			<b>328.1</b>			22.1	<b>50.6</b>
	10/31	19.8			<b>52.1</b>			7	26.4
H27	1/20	29.5			<b>246.5</b>			13.2	<b>116.6</b>
	6/19	<b>100.3</b>			<b>125.0</b>			9.8	15.7
	10/30	9.1			<b>127.6</b>			6.3	20.5
	12/1	13.7			<b>46.2</b>			12.6	
H28	1/14	11.0			<b>145.6</b>			<b>113.4</b>	<b>53.7</b>
	7/7	21.9			<b>422.4</b>			6.8	<b>397.1</b>
	10/27	15.8			<b>63.0</b>			25.1	<b>51.0</b>

表 2-3-2. 続き。平成 16～令和 7 年度における SPSS 測定値の一覧（単位：kg/m<sup>3</sup>）

	日付	爪白	弁天島東	桜浜	竜串西	竜串東	旧大湊南	大湊南 (旧大湊沖)	見残し
H29	1/14	10.2			14.2			9.2	<b>279.2</b>
	7/19	6.4			<b>50.2</b>			14.5	<b>58.9</b>
	10/30	5.7			8.3			8.7	<b>30.8</b>
H30	1/15	3.0			15.4			6.9	<b>138.5</b>
	7/18	6.3			<b>62.5</b>			2.7	<b>51.0</b>
	10/25	2.6			10.5			5.6	<b>39.4</b>
R1	1/25	<b>33.3</b>			<b>73.7</b>			<b>37.2</b>	26.4
	7/18 7/24	2.2			10.0			6.0	26.9
	10/28	4.4			15.4			4.7	12.5
R2	1/16	2.2			<b>73.7</b>			6.4	19.4
	7/27	3.8			11.0			1.6	<b>85.7</b>
	10/29	8.3			14.1			2.4	15.9
R3	1/13	<b>32.6</b>			20.0			10.9	20.8
	7/28	<b>61.6</b>			<b>105.3</b>			10.1	25.1
	10/21	<b>43.8</b>			21.9			6.4	12.1
R4	1/28	7.0			<b>34.6</b>			3.1	13.2
	6/30	3.2			16.7			9.0	18.6
	12/16	2.0			<b>36.4</b>			5.5	16.3
R5	1/11	5.0			<b>42.3</b>			5.0	5.0
	7/7	<b>44.6</b>			<b>72.8</b>			29.8	17.3
	10/26	2.7			<b>34.8</b>			14.1	27.5
R6	1/12	9.6			21.4			9.6	13.1
	6/26	28.2			<b>32.6</b>			8.6	<b>61.6</b>
	10/18	3.5			21.1			8.7	<b>37.0</b>
R7	1/17	6.0			26.9			3.3	22.8
	7/9	<b>65.16</b>			12.3			9.7	<b>32.6</b>
	12/2	<b>74.0</b>			19.6			3.9	12.3
R8	1/9	5.1			<b>45.5</b>			10.5	29.5

SPSS ランク	5a 以下	5b	6a	6b	7	8
表示色の意味	0-30	<b>30-50</b>	<b>50-100</b>	<b>100-200</b>	<b>200-400</b>	<b>400&lt;</b>

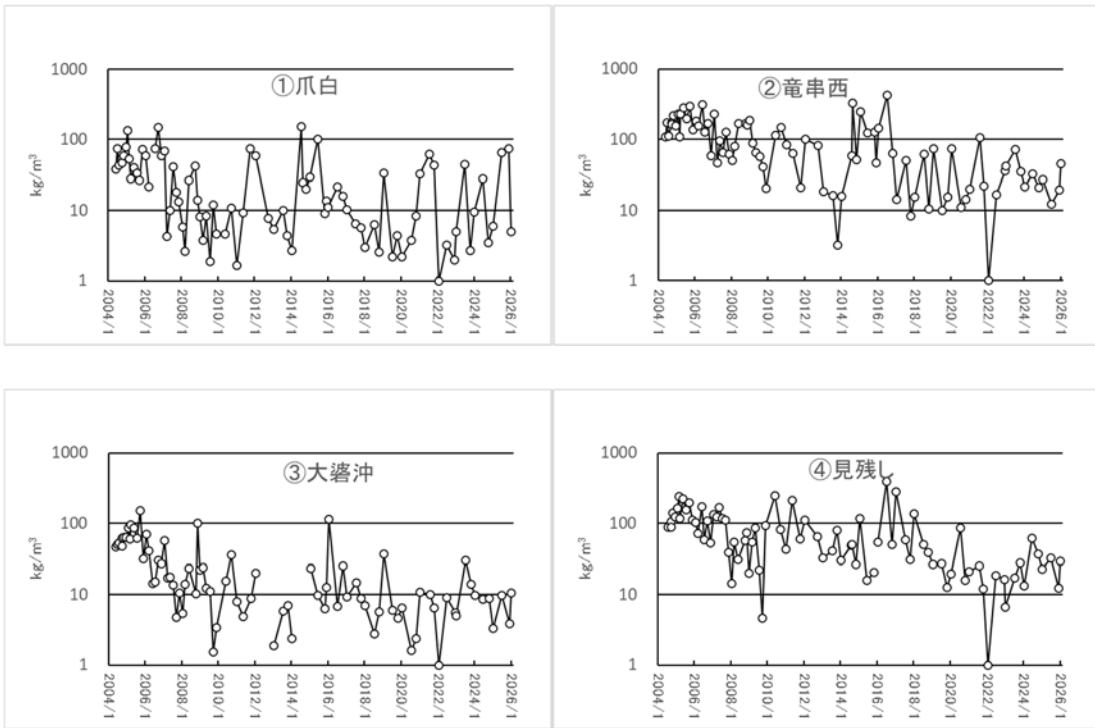


図 2-3-2. 平成 16～令和 7 年度の地点別 SPSS 調査結果

## 2-3-2. 水温の連続観測

### a) 目的

高知西南豪雨災害以前から現在まで良好なサンゴ群集が維持されている爪白、災害時に多大な影響を受けたものの、現在はサンゴ生育状況が改善しているものと推察される大碇南、災害以前からサンゴ群集の衰退が指摘されていた竜串西、以上の3地点では、放流されたサンゴ種苗の生育状況に差異が確認されたものの、物理環境の基礎情報が不足していたことから、その評価ができなかった。そこで、これらの地点に見残しを加えた計4地点において、サンゴの生育環境についての基礎資料を得ることを目的に、メモリー式水温計を用いた海水温の連続測定を実施した。なお、爪白、大碇、竜串では平成21年度から、見残しでは平成24年度から同様の測定が継続されている。平成27年度からは爪白、見残しの2地点のみで測定した。

### b) 方法

図2-3-3に示した爪白、見残しの2カ所に水温データロガー（Onset社製、HOBO U22 Water Temp Pro V2）（図2-3-4）をそれぞれ1個設置し、1時間毎の海水温（℃）を測定した。

水温データロガーは平成21年7月27日に、見残しのロガーは平成24年11月17日に設置され、以降、水温データの読み取りが行われている。今年度は令和7年7月9日、令和8年1月9日に見残し、爪白の両地点で交換を行なった。

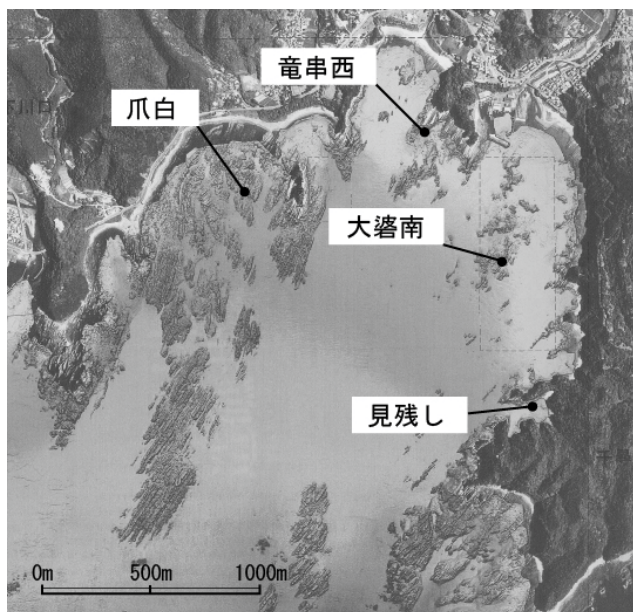


図2-3-3. 水温データロガー計設置地点



図2-3-4. 設置された水温データロガー

c) 測定結果

表 2-3-3 に令和 7 年 1 月 1 日～令和 8 年 1 月 9 日の日平均水温を示す。図 2-3-5 に、計測開始から令和 8 年 1 月 9 日までの日平均水温の推移を示した。

表 2-3-3. 湾内 2 地点における日平均水温の推移（その 1）（℃）

	令和 7 年 1 月			令和 7 年 2 月			令和 7 年 3 月	
	爪白	見残し		爪白	見残し		爪白	見残し
1 日	18.3	18.4	1 日	18.2	18.3	1 日	16.9	16.9
2 日	18.5	19.0	2 日	18.2	18.4	2 日	17.8	17.9
3 日	18.4	18.6	3 日	18.2	18.2	3 日	18.1	18.3
4 日	18.2	18.4	4 日	17.6	17.2	4 日	17.9	17.9
5 日	18.1	18.2	5 日	17.0	16.5	5 日	17.7	17.8
6 日	17.9	17.9	6 日	16.5	16.0	6 日	17.2	17.1
7 日	17.6	17.3	7 日	16.4	16.8	7 日	16.9	17.3
8 日	16.9	17.1	8 日	16.5	16.5	8 日	17.1	17.1
9 日	18.0	17.9	9 日	16.4	16.7	9 日	16.9	17.0
10 日	17.7	17.8	10 日	16.6	16.8	10 日	17.0	16.8
11 日	17.3	17.6	11 日	16.5	16.6	11 日	16.8	16.7
12 日	17.5	17.6	12 日	16.6	16.6	12 日	16.9	17.0
13 日	17.2	17.2	13 日	16.7	16.6	13 日	17.2	17.3
14 日	17.2	17.3	14 日	16.6	16.9	14 日	17.1	17.2
15 日	17.1	17.1	15 日	16.7	17.0	15 日	17.0	16.8
16 日	16.7	16.9	16 日	17.0	17.0	16 日	16.6	16.5
17 日	16.8	17.0	17 日	16.8	16.7	17 日	16.3	15.8
18 日	16.9	17.1	18 日	16.5	16.5	18 日	16.0	15.8
19 日	16.9	16.9	19 日	16.2	16.0	19 日	15.7	15.4
20 日	16.7	16.9	20 日	15.9	16.0	20 日	15.6	15.7
21 日	16.6	16.9	21 日	16.0	16.2	21 日	15.6	15.9
22 日	18.2	18.5	22 日	15.9	15.8	22 日	16.2	16.4
23 日	18.8	18.9	23 日	15.7	15.8	23 日	16.5	16.7
24 日	18.7	18.9	24 日	15.6	15.4	24 日	17.2	17.3
25 日	18.8	18.8	25 日	15.5	15.6	25 日	17.6	17.9
26 日	18.5	18.7	26 日	16.2	16.3	26 日	18.2	18.4
27 日	18.5	18.6	27 日	16.2	16.2	27 日	18.8	19.0
28 日	18.1	18.2	28 日	16.3	16.4	28 日	18.9	19.0
29 日	17.9	17.8				29 日	18.8	18.7
30 日	17.5	17.8				30 日	18.4	18.2
31 日	18.0	18.3				31 日	17.8	17.9

表 2-3-3. 湾内 2 地点における日平均水温の推移（その 2）（℃）

	令和 7 年 4 月			令和 7 年 5 月			令和 7 年 6 月	
	爪白	見残し		爪白	見残し		爪白	見残し
1 日	17.8	18.0	1 日	18.7	18.8	1 日	21.3	21.6
2 日	18.5	18.7	2 日	18.7	18.9	2 日	21.5	21.6
3 日	18.4	18.7	3 日	18.5	18.8	3 日	21.4	21.8
4 日	18.5	18.5	4 日	18.4	19.2	4 日	21.5	21.9
5 日	18.6	18.7	5 日	18.7	18.7	5 日	21.6	21.8
6 日	18.7	18.9	6 日	19.0	19.2	6 日	21.9	21.9
7 日	18.3	18.8	7 日	19.8	19.8	7 日	22.1	22.3
8 日	17.9	18.3	8 日	20.2	20.1	8 日	22.0	22.2
9 日	18.2	18.4	9 日	20.7	20.8	9 日	22.0	22.0
10 日	18.4	18.5	10 日	21.1	21.3	10 日	22.2	22.4
11 日	18.5	18.6	11 日	21.2	21.4	11 日	22.3	22.7
12 日	18.4	18.4	12 日	21.1	21.3	12 日	22.4	22.6
13 日	18.5	18.6	13 日	20.5	20.6	13 日	22.7	22.9
14 日	17.9	17.9	14 日	20.6	20.9	14 日	23.2	23.4
15 日	17.2	17.5	15 日	20.8	21.1	15 日	23.5	23.9
16 日	16.9	17.0	16 日	20.6	20.8	16 日	24.0	24.3
17 日	17.2	17.4	17 日	20.9	21.1	17 日	23.7	24.3
18 日	17.5	17.8	18 日	20.6	21.0	18 日	23.9	24.2
19 日	17.8	18.2	19 日	20.5	20.7	19 日	23.7	24.0
20 日	18.0	18.2	20 日	20.5	20.8	20 日	23.7	24.3
21 日	18.5	18.7	21 日	21.1	21.4	21 日	24.2	24.4
22 日	18.4	18.7	22 日	22.0	22.2	22 日	24.9	25.2
23 日	18.8	18.9	23 日	22.1	22.5	23 日	24.6	25.0
24 日	18.3	18.6	24 日	22.1	22.2	24 日	24.5	25.0
25 日	18.4	18.4	25 日	21.2	21.7	25 日	24.7	25.1
26 日	18.5	18.5	26 日	20.7	21.0	26 日	24.8	25.4
27 日	18.9	18.8	27 日	20.7	20.8	27 日	23.9	24.8
28 日	18.9	19.0	28 日	20.7	20.9	28 日	23.6	24.2
29 日	18.9	18.8	29 日	21.1	21.3	29 日	23.8	24.2
30 日	18.8	18.7	30 日	21.2	21.4	30 日	24.7	25.0
			31 日	21.5	22.0			

表 2-3-3. 湾内 2 地点における日平均水温の推移（その 3）（℃）

	令和 7 年 7 月			令和 7 年 8 月			令和 7 年 9 月	
	爪白	見残し		爪白	見残し		爪白	見残し
1 日	24.9	25.0	1 日	29.1	29.4	1 日	27.9	28.9
2 日	24.5	24.9	2 日	28.6	28.8	2 日	28.8	29.1
3 日	25.5	25.8	3 日	28.7	29.4	3 日	29.2	29.4
4 日	25.7	26.2	4 日	29.1	29.7	4 日	28.5	28.8
5 日	25.5	26.2	5 日	28.7	29.3	5 日	28.3	28.4
6 日	25.4	25.9	6 日	29.0	29.4	6 日	28.1	28.6
7 日	24.2	24.7	7 日	28.1	29.0	7 日	28.2	28.2
8 日	24.8	25.3	8 日	27.9	28.2	8 日	28.1	28.1
9 日	26.0	26.5	9 日	26.5	26.9	9 日	28.0	28.1
10 日	26.8	27.2	10 日	26.9	27.3	10 日	28.1	28.2
11 日	27.3	28.0	11 日	26.7	27.2	11 日	28.3	28.5
12 日	27.8	28.2	12 日	26.9	27.1	12 日	28.6	28.6
13 日	28.1	28.4	13 日	26.7	27.3	13 日	28.7	28.9
14 日	28.2	28.4	14 日	26.6	27.1	14 日	28.5	28.9
15 日	27.7	28.0	15 日	26.1	26.8	15 日	28.0	28.5
16 日	27.6	27.8	16 日	26.5	27.0	16 日	28.2	28.8
17 日	28.0	28.0	17 日	26.2	27.0	17 日	29.1	29.4
18 日	27.8	28.0	18 日	26.3	27.1	18 日	29.0	29.4
19 日	28.0	28.2	19 日	26.7	27.0	19 日	28.5	28.6
20 日	27.8	28.2	20 日	26.9	27.5	20 日	28.5	28.6
21 日	28.2	28.3	21 日	26.6	27.2	21 日	28.7	28.7
22 日	28.8	29.0	22 日	27.1	27.3	22 日	28.6	28.6
23 日	29.0	29.2	23 日	27.1	27.3	23 日	28.3	28.4
24 日	28.9	29.2	24 日	27.1	27.7	24 日	28.0	28.1
25 日	28.9	29.2	25 日	26.7	27.6	25 日	27.9	28.4
26 日	28.1	28.4	26 日	26.6	27.3	26 日	28.1	28.4
27 日	28.0	28.5	27 日	26.6	26.9	27 日	28.1	28.0
28 日	28.4	28.7	28 日	26.7	27.2	28 日	27.9	27.8
29 日	29.0	29.1	29 日	27.3	27.5	29 日	27.9	28.0
30 日	29.2	29.4	30 日	28.3	28.5	30 日	27.7	27.9
31 日	29.1	29.3	31 日	28.4	29.2			

表 2-3-3. 湾内 2 地点における日平均水温の推移（その 4）（℃）

	令和 7 年 10 月			令和 7 年 11 月			令和 7 年 12 月	
	爪白	見残し		爪白	見残し		爪白	見残し
1 日	27.6	27.8	1 日	24.4	24.0	1 日	21.6	21.7
2 日	27.5	27.6	2 日	24.2	24.1	2 日	21.5	21.6
3 日	27.3	27.2	3 日	23.9	23.8	3 日	21.1	21.0
4 日	27.5	27.8	4 日	23.9	24.2	4 日	20.4	20.5
5 日	28.3	28.5	5 日	24.2	24.1	5 日	20.0	20.0
6 日	27.9	28.2	6 日	24.6	24.7	6 日	20.2	20.8
7 日	27.6	27.5	7 日	24.6	24.6	7 日	21.4	21.5
8 日	27.4	27.4	8 日	24.4	24.4	8 日	21.4	21.5
9 日	27.4	27.5	9 日	24.2	24.2	9 日	21.2	21.2
10 日	27.3	27.4	10 日	23.8	23.4	10 日	21.0	21.5
11 日	27.0	27.0	11 日	23.2	22.9	11 日	21.4	21.5
12 日	27.2	27.2	12 日	23.0	22.9	12 日	21.3	21.4
13 日	27.9	27.9	13 日	22.6	23.1	13 日	20.8	21.1
14 日	27.3	27.3	14 日	22.8	23.4	14 日	20.9	20.7
15 日	27.7	27.8	15 日	23.3	23.6	15 日	20.2	20.3
16 日	27.9	27.9	16 日	23.3	23.5	16 日	19.9	20.0
17 日	27.8	27.8	17 日	23.3	23.4	17 日	19.8	19.8
18 日	27.7	27.6	18 日	22.8	22.7	18 日	19.6	19.6
19 日	27.5	27.4	19 日	22.2	22.1	19 日	20.6	20.7
20 日	27.3	27.3	20 日	22.0	22.2	20 日	20.7	20.8
21 日	27.5	27.6	21 日	21.8	21.9	21 日	20.8	21.0
22 日	27.3	26.9	22 日	22.0	22.4	22 日	20.5	20.5
23 日	26.7	26.5	23 日	23.2	23.3	23 日	20.4	20.3
24 日	26.2	26.3	24 日	23.3	23.5	24 日	20.2	20.2
25 日	25.9	26.1	25 日	23.2	23.1	25 日	19.9	19.7
26 日	26.2	26.3	26 日	22.8	22.9	26 日	18.7	18.3
27 日	26.0	25.9	27 日	22.6	22.7	27 日	18.8	19.0
28 日	25.6	25.5	28 日	22.2	22.1	28 日	20.0	20.3
29 日	24.9	25.0	29 日	21.7	21.9	29 日	20.7	20.9
30 日	25.0	25.1	30 日	21.7	21.8	30 日	20.8	20.8
31 日	24.9	25.2				31 日	20.3	20.4

表 2-3-3. 湾内 2 地点における日平均水温の推移（その 5）（℃）

	令和 7 年 1 月	
	爪白	見残し
1 日	19.8	19.8
2 日	19.1	19.0
3 日	18.3	18.0
4 日	17.7	17.6
5 日	17.6	18.0
6 日	18.6	19.0
7 日	19.3	19.6
8 日	19.4	19.4
9 日	18.7	18.9

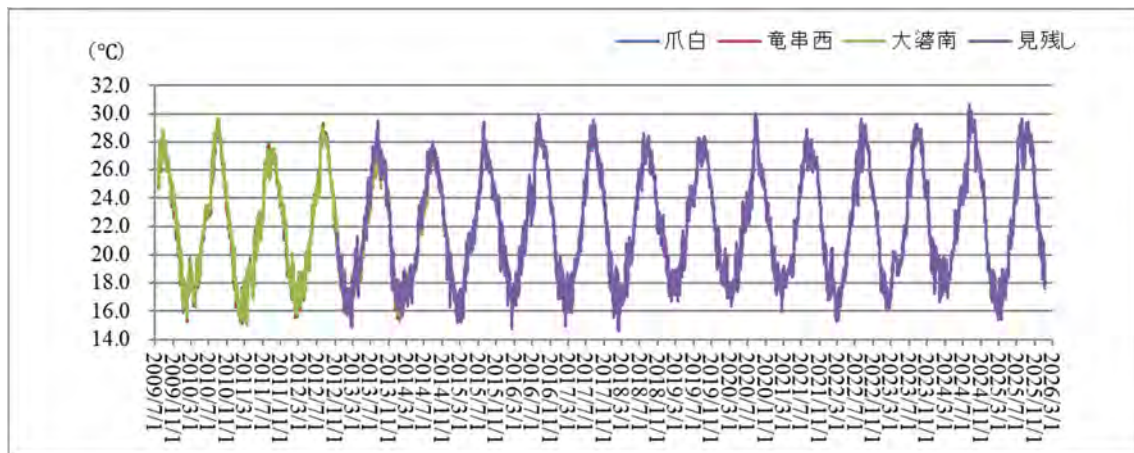


図 2-3-5. 竜串湾内 4 地点における日平均水温の推移

（※平成 27 年度より見残し、爪白の 2 地点のみ観測）

計測開始からの各地点の年ごとの平均水温、最高水温、最低水温を表 2-3-4、表 2-3-5、表 2-3-6 に示した（この値は毎時水温から抽出したため、日平均水温が記された表 2-3-3、図 2-3-5 とは必ずしも一致しないことに注意）。

表 2-3-4. 年別地点別の年平均水温（℃）

	爪白	竜串西	大礮南	見残し
平成 21 年	—	—	—	—
平成 22 年	21.9	21.8	22.0	—
平成 23 年	21.5	21.5	21.5	—
平成 24 年	21.8	21.8	21.8	—
平成 25 年	21.4	21.4	21.5	21.8
平成 26 年	21.5	—	21.6	21.7
平成 27 年	21.7	—	—	21.8
平成 28 年	22.1	—	—	22.2
平成 29 年	21.9	—	—	22.1
平成 30 年	21.7	—	—	21.8
令和元年	22.4	—	—	22.5
令和 2 年	21.8	—	—	22.0
令和 3 年	21.9	—	—	22.0
令和 4 年	22.1	—	—	22.1
令和 5 年	22.1	—	—	22.2
令和 6 年	22.6	—	—	22.8
<b>令和 7 年</b>	<b>22.2</b>	—	—	<b>22.4</b>
平均	21.9	21.6	21.7	22.1

表 2-3-5. 年別地点別の年最高水温（℃）

	爪白	竜串西	大礬南	見残し
平成 21 年	29.0	29.1	29.1	—
平成 22 年	29.9	29.9	30.0	—
平成 23 年	28.2	28.6	28.4	—
平成 24 年	29.6	29.8	30.0	—
平成 25 年	29.5	29.3	29.2	30.2
平成 26 年	27.9	—	28.2	28.6
平成 27 年	28.8	—	—	30.0
平成 28 年	30.1	—	—	30.4
平成 29 年	29.8	—	—	30.4
平成 30 年	29.1	—	—	29.5
令和元年	29.0	—	—	29.7
令和 2 年	30.1	—	—	30.2
令和 3 年	29.1	—	—	29.1
令和 4 年	30.0	—	—	30.6
令和 5 年	29.7	—	—	29.9
令和 6 年	30.7	—	—	31.4
<b>令和 7 年</b>	<b>29.7</b>	—	—	<b>30.3</b>
平均	29.4	29.3	29.2	30.0

表 2-3-6. 年別地点別の年最低水温 (°C)

	爪白	竜串西	大濬南	見残し
平成 21 年	—	—	—	—
平成 22 年	15.2	14.8	15.2	—
平成 23 年	14.6	14.7	14.9	—
平成 24 年	15.2	15.2	15.3	—
平成 25 年	14.7	14.6	14.9	13.0
平成 26 年	15.1	—	15.1	15.4
平成 27 年	15.2	—	—	13.0
平成 28 年	15.2	—	—	13.2
平成 29 年	14.7	—	—	14.7
平成 30 年	13.9	—	—	14.3
令和元年	16.5	—	—	16.1
令和 2 年	16.4	—	—	14.5
令和 3 年	15.5	—	—	14.7
令和 4 年	14.7	—	—	15.0
令和 5 年	15.7	—	—	15.7
令和 6 年	16.2	—	—	16.2
<b>令和 7 年</b>	<b>15.1</b>	—	—	<b>15</b>
平均	15.2	14.8	15.1	14.7

今年度の年間平均水温（表 2-3-4）は昨年と比較し、爪白・見残し両地点で 0.4°C 下がりがり（-0.4°C）、例年の比較では両地点とも 0.3°C 高い値となった。

今年度の最高水温（表 2-3-5）は、これまでの観測年で最低であった平成 26 年度に比べて爪白で 1.8°C、見残しで 1.7°C 高い値となり、平年と比べても両地点ともに 0.3°C 高い値となった。最低水温（表 2-3-6）はこれまでの観測年において最高であった令和元年度と比べて爪白で 1.4°C、見残しで 1.1°C 低く、平年と比べて爪白で 0.1°C 低く、見残しで 0.3°C 高かった。今年度の最高水温と最低水温の差は爪白で 14.6°C、見残しで 15.3°C となった。昨年度の令和 7 年 1 月の調査において、昨年夏の高水温により白化したサンゴが多数斃死しているのが確認されていたが、今年度調査ではさらにサンゴ被度が低下した。

## 2-4. オニヒトデ駆除の実施

### a) 目的

竜串における観光資源の中核を担う海城公園地区内のサンゴ群集を保全するため、オニヒトデの駆除作業を実施する。

### b) 事前調整

駆除を実施する前に駆除実施区域の地元漁業協同組合に駆除方法を説明し、了解を得るとともに、高知県漁業調整規則の許可を受けた。また、持続可能な保全体制構築の観点から、可能な限り駆除作業従事者に地域住民を配置して実施した。管理技術者は、初回の駆除実施時および、年度途中を含めた計2回以上、駆除作業に同行した。

### c) 方法

潜水により発見したオニヒトデを手鉤等で除去し、ヒトデにスケールを添えて写真を撮影した。撮影後、ハンマーを用いて水中破砕によってオニヒトデを駆除した。また、撮影した写真をもとに個体数と体長直径を算出した。

サンゴ食巻貝類はピンセットを用いて除去し、袋に入れて陸揚げした。陸揚げした後、駆除した巻貝類の個体数を数えた。

### d) 結果

竜串湾におけるオニヒトデ駆除活動を2025年11月19日～2026年2月18日の期間で実施し、その日数および、駆除の規模は、8日42人回であった(表2-4-1)。これまでの本事業における駆除結果と今年度における活動の初回時にてオニヒトデの生息密度が比較的高いと判断した地点においては複数回の駆除活動を実施した。作業は竜串湾内の8地点で行い、計558個体のオニヒトデを駆除し、期間中の一人当たりの駆除数の平均は6.6個体/人となった。各地点におけるオニヒトデ駆除数を図2-4-1に示した。駆除されたオニヒトデのうち、ロウコウで280個体、弁天島で97個体、爪白で78個体が駆除された。今年度は駆除活動期間全体を通して1人あたりのオニヒトデ駆除個体数が減少せず、2月18日の駆除においてもロウコウで52個体(10.4個体/人)とメクサレで33個体(6.6個体/人)が駆除された。また、表2-4-2にオニヒトデの地点別体長直径の内訳を示したとおり、体長20～30cmの個体が多く見られ、20cm未満や10cm未満の個体もそれぞれ7個体、139個体と非常に多かった。

その他、マンジュウヒトデが20個体、サンゴ食巻貝は65個体が全地点で駆除された。マンジュウヒトデは、オニヒトデの個体数が多いため優先して駆除を行わなかったが、大

箸やロウコウで個体数が多いと考えられる。サンゴ食巻貝の大きな集団は駆除範囲内では確認されず、発生状況は平常であった。

表 2-4-1. 地点別駆除活動履歴(駆除個体数)

地点	実施日	作業 者数	駆除個体数		
			オニヒトデ (駆除個体数/人)	マンジュウヒトデ	サンゴ食巻貝
ロウコウ	2025.11.19	5	42 (8.4)	-	-
	2025.11.26	5	35 (7)	-	-
	2025.12.3	6	31 (5.2)	-	23 (3.8)
	2025.12.24	5	38 (7.6)	2 (0.4)	-
	2026.1.7	6	28 (4.7)	3 (0.5)	-
	2026.2.4	6	54 (9)	-	23 (3.8)
	2026.2.18	5	52 (10.4)	-	-
爪白	2025.11.26	5	27 (5.4)	-	-
	2026.1.28	4	38 (9.5)	-	-
	2026.2.4	3	13 (4.3)	-	-
弁天島	2025.12.24	5	38 (7.6)	-	-
	2026.1.7	6	41 (6.8)	-	-
	2026.2.4	3	18 (6)	-	19 (6.3)
メクサレ	2026.1.28	4	25 (6.25)	4 (1)	-
	2026.2.18	5	33 (6.6)	-	-
大濬	2025.11.19	5	18 (3.6)	-	-
	2025.12.3	6	27 (4.5)	11 (1.8)	-
合計		84	558 (6.6)	20	65

※上記作業者数とは別に洋上指示者が駆除 1 回につき 1 名従事

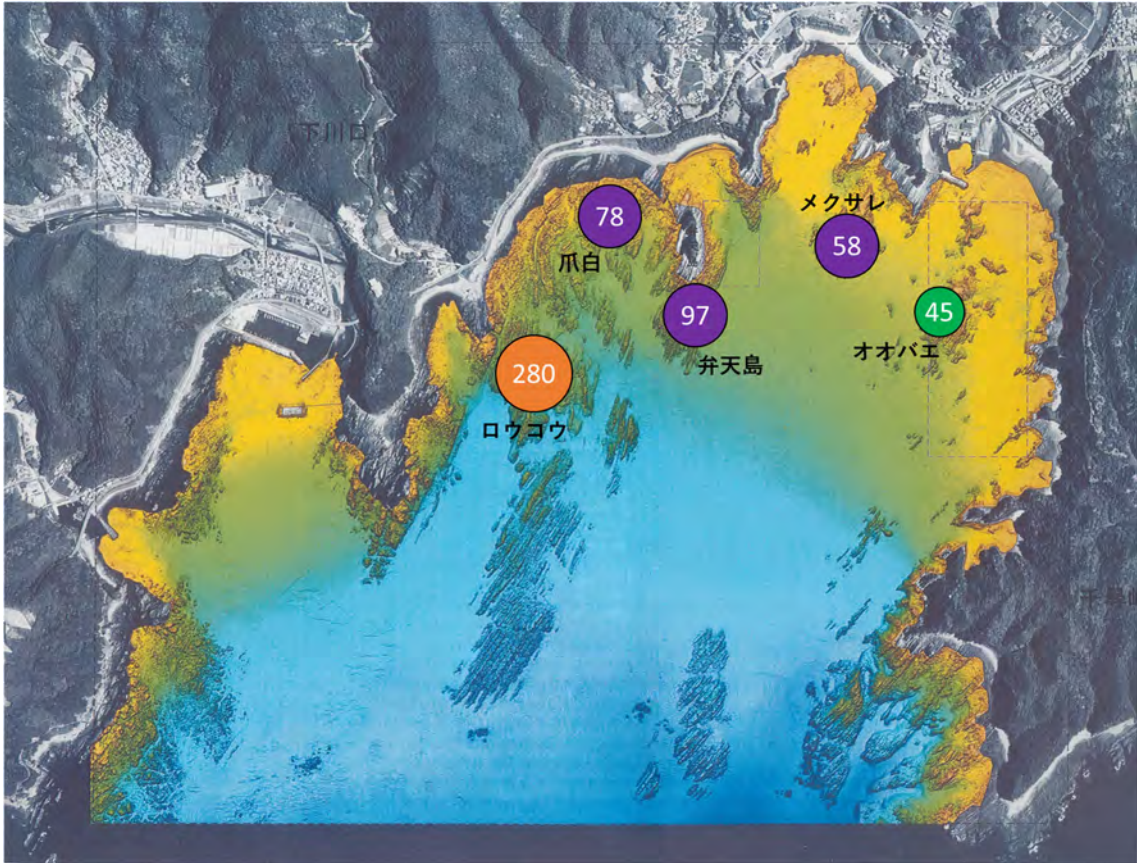


図 2-4-1. 地点別オニヒトデ駆除数

表 2-4-2. 地点別オニヒトデの体長直径の内訳

地点名	実施 人回	総駆除 個体数	体長直径の内訳			
			10 cm 未満	10~20 cm 未満	20 cm~30 cm 未満	30 cm 以上
口ウコウ	7	280	3	64	146	67
爪白	3	78	0	25	36	17
弁天島	3	97	0	27	43	27
メクサレ	2	58	2	11	39	6
大礮	2	45	2	12	24	7
合計	17	558	7	139	288	124

### 3. 保全の担い手育成のための取組

平成 13 年の高知西南豪雨災害後の自然再生事業の実施によって、サンゴの生息状況は、豪雨災害前の状態まで回復した。一方で、オニヒトデ食害など、海の脅威は継続している。今後も環境を良好な状態で維持し続けるためには、人が関わり続けること、つまり担い手の確保が必要である。また、平成 26 年度竜串自然再生専門家技術支援委員会において、市民参加及び地元主導によるモニタリングの必要性も指摘されている。

そこで、今年度も次世代の保全の担い手育成に主眼をおいた取組を行った。

各イベントにおいて利用する資料の作成を行うとともに、募集のためのチラシを作成した。

#### 3-1. 市民参加型の保全体制構築に向けた取組

市民参加、地元主導による継続的な保全体制の構築に向けた取組として、下記に示した活動を開催した。

- ・ 第 1 回（令和 7 年 8 月 26 日）竜串海さんぽ  
シュノーケリングによるサンゴ被度等の簡易的なモニタリングの担い手の育成（室内講習及び野外実習）
- ・ 第 2 回（令和 7 年 9 月 27 日）室内イベント「海辺の宝箱づくり」  
竜串の海の生物多様性にスポットを当てた室内イベント
- ・ 第 3 回（令和 7 年 12 月 6 日）室内イベント「足摺海底館 Watch！」  
足摺海底館の窓から簡易的なモニタリング体験、担い手の育成（室内講習及び実習）

行事の広報活動より前に、行事实施計画（安全管理体制を含む）及び緊急連絡体制を作成し、担当官と協議し、承諾を得たうえで提出した。また、行事終了後は、行事の概要、参加者数、当日の写真等を取りまとめた行事实施報告書を提出した。

a) 竜串海さんぽ (図 3-1-1)

次世代の担い手育成のため、これまでは三崎小学校をはじめとした土佐清水市内の小  
 学校等を対象とした環境教育を継続してきたが、職業選択等を意識する年代へのアプ  
 ローチはあまりしてこなかった。そこで、2019 年度より、「竜串 HIGH スクールキャンプ」  
 と題して地元高校生を主なターゲットに実施している。2023 度からはさらに対象を広げ  
 「竜串海さんぽ」と題し、高校生以上の学生を対象に募集を行った。竜串湾で見られる  
 生物を実際に観察することにより、竜串の魅力の確認や、保全の担い手の育成を目的と  
 する。

参加者の申し込み受付、参加者への連絡、参加者の保険加入及びウエットスーツ・シ  
 ュノーケルセットの手配を実施した。予備日は9月6日とした。

日時	令和7年8月26日 9:00~16:00
場所	土佐清水市竜串 竜串ビジターセンター
スタッフ	スタッフ7名（環境省土佐清水自然保護官事務所3名、黒潮生物研究所4名） 講師：目崎拓真、古井戸樹、戸篠祥、辻元ましろ
参加者	合計18名（清水高校6名、長浜高校4名、高知大学3名、東海大学2名、その他 3名）+引率教員4名

① プログラムの概要

時間	場所	項目
9:30-10:00	竜串 VC	開会挨拶、事前レクチャー
10:00-11:00	竜串 VC	ビデオ等を利用し練習を行う
11:00-12:00	竜串 VC	昼食
12:00-13:30	桜浜	野外活動（モニタリング）
13:30-14:30	桜浜、竜串 VC	移動、着替え
14:30-15:30	竜串 VC	モニタリング結果まとめ
15:30-16:00	竜串 VC	片付け、解散

<当初予定からの変更>

当日、学生2名が欠席した（参加人数に反映済み）。



写真1 モニタリングについての講義



写真2 映像を使ったモニタリング練習



写真2 カードによる被度調査の練習



写真3 集合写真



写真5 実際の海でのモニタリング

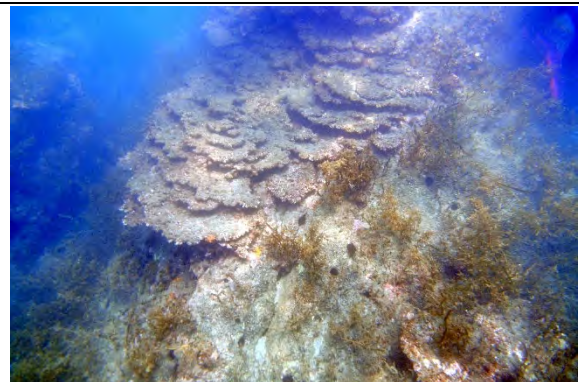


写真6 斃死したサンゴが多い



写真7 参加者によるモニタリング結果発表



写真8 モニタリング結果解説

図 3-1-1. 取り組みの様子

## ② 参加者の感想

イベント終了後に行ったアンケートは学生・教員併せて22名に解答頂いた。5段階評価の総合満足度5が19人、総合満足度4が3人と高評価が得られた。アンケート結果の概要としては、サンゴモニタリングを体験した感想として「サンゴの状態が昨年度と比較して急激に変化したことに驚いた」、「サンゴの被度が想定より低かった」、「思いの外サンゴが少なく、今の清水の海の状態を知ることができよかった」等、サンゴの白化または斃死に驚いた感想が多かった。また、「座学と実際に海で見る両方の体験ができ、知識と体験をつなげられた」、「実際に目で見て記録することで危機感やモニタリングの重要性を感じた」、「普段気にしないことに対し関心を持つことができ、問題点なども調査できた」等、イベント趣旨に沿った好意的な感想が得られた。

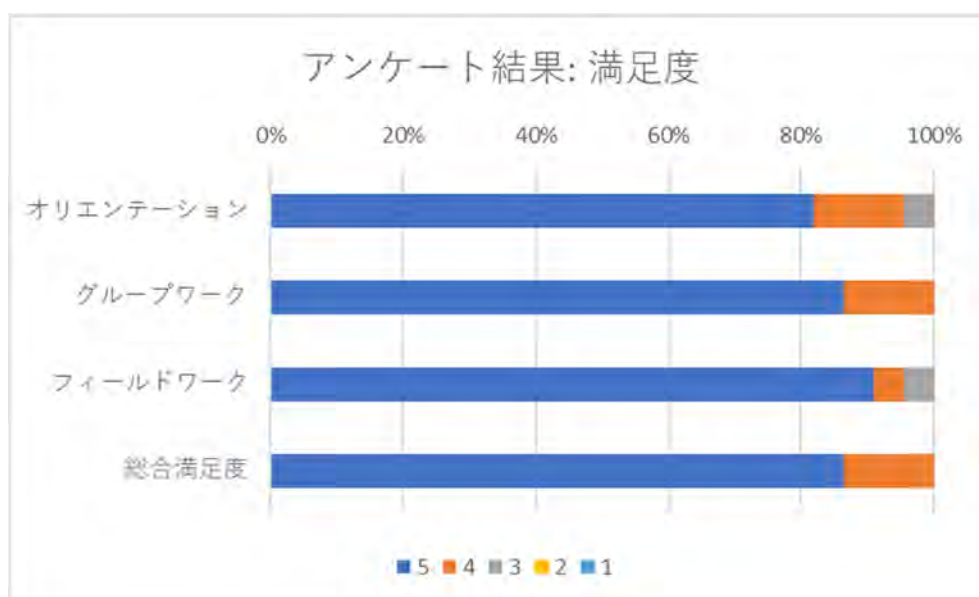


図 3-1-2. アンケート結果

## ③ まとめ

### イベント全体

- ・予定通り午前中に海中の映像を使いモニタリングの疑似体験を行った後、竜串湾桜浜でシュノーケリングにてモニタリングを行った。
- ・遊泳力により3班に分け、それぞれ初級、中級、上級コースのモニタリングを行った（図 3-1-3）。
- ・モニタリング後、各班から代表者1名がモニタリング結果の発表を行った。

### プログラムについて

#### ○モニタリング疑似体験

- ・モニタリング方法等は昨年同様時間をかけて指導することができた。

#### ○海でのモニタリング

- ・例年通り事前にモニタリングの疑似体験を行うことにより、余裕を持ってモニタリング

することができた。

・昨年度の白化により、多くのサンゴが斃死しているという現状を体験してもらうことができた。

○モニタリング結果のまとめ

桜浜でのモニタリング体験イベントは令和4年度から実施している（令和4年度は荒天のため室内プログラムのみ）。今年度のモニタリングでは昨年度夏の高水温による白化によりサンゴが斃死し、3地点全てで被度の低下が確認された（図3-1-4）。このような攪乱状況を参加者自らが実際に見た上で、記録に残し、まとめることができた。



図 3-1-3. モニタリング地点。

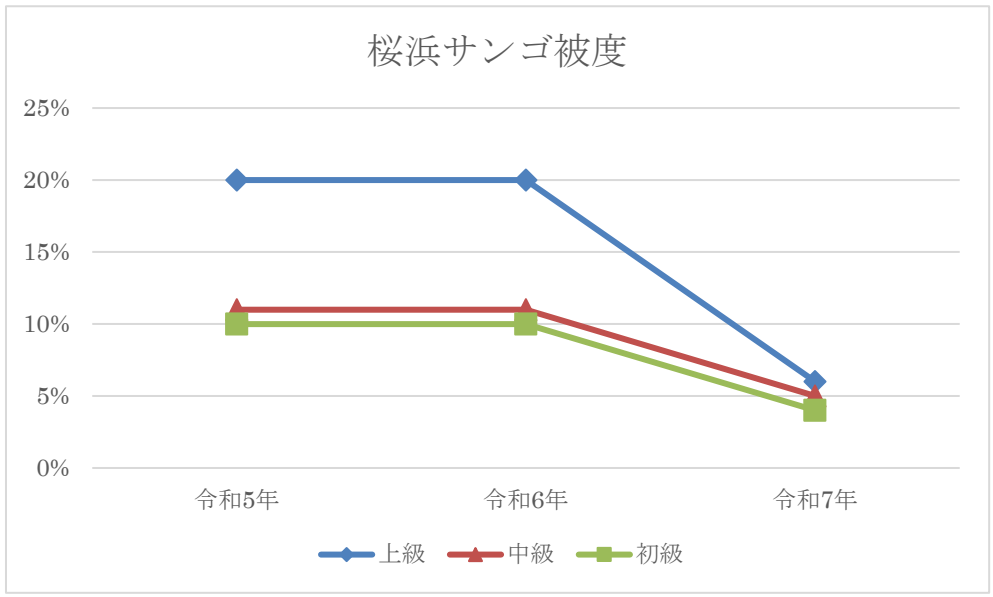


図 3-1-4. 令和5年からモニタリングを行っている桜浜3地点の被度。地点は図 3-1-3 を参照。

## b) 室内イベント「海辺の宝箱づくり」(図 3-1-5)

地域が抱える課題として、人口減少があり、今後も人口は減少していくと予測されている。竜串においては、高知県西南豪雨災害により、大量の土砂が竜串湾に流れ込み、湾内のサンゴ群集が甚大な被害を受けた。関係機関の協力で、サンゴの生息状況は、豪雨災害前の状態まで回復したが、現在はオニヒトデ食害がサンゴ保全上の脅威となっている。今後も環境を良好な状態で維持し続けるためには、人口が減少していく中でも、保全の担い手の確保が必要である。

また、土佐清水市立市民図書館においては、図書の貸出冊数は年々減少しており、スマートフォンの普及などの環境変化により、子供たちが本から知識・情報を得る機会が減っているものと思われる。図書館においても、身近な自然への興味から郷土愛を育てるため、また、自分で調べる力を身に付けるために、自然科学の図鑑等の活用を推進したいところである。

これらの課題の解決には、「竜串の自然」や「本」に興味をもってもらうことが最初のステップとして重要だと思われる。そこで、本イベントでは、「竜串の海の生物多様性にスポットを当てた魅力のPR」と「本で調べものをする事」を体験し、これらに興味や関心を持ってもらうこと目的とし、イベントを行った。

### イベントの概要

日時	令和7年9月27日(土) 13:00~16:00
場所	土佐清水市立市民図書館 視聴覚室
スタッフ	スタッフ8名： 環境省土佐清水自然保護官事務所 鶴田、萩野 土佐清水市立市民図書館 池、芝、吉本 黒潮生物研究所 古井戸、辻元、大釜
参加者	午後: 11名(大人4人、子供7人。大人2名は保護者として参加)
内容	① 講話「海の生き物紹介とその名前の調べ方」 ② 海辺の宝箱づくり

① タイムスケジュール

時間	項目	内容
12:30	スタッフ集合	会場設営
13:00	受付	班ごとに机に誘導
13:30	開会挨拶	イベントの趣旨、スタッフの紹介
13:35	身近な海の紹介	講話「海の生き物紹介とその名前の調べ方」
14:00	作業内容説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ テーマ決め、素材選び</li> <li>・ 同定、ラベリング</li> <li>・ 作品シート（タイトル・こだわり・使った漂着物）に書き込み</li> </ul>
15:00	ブックトーク	関連の図書を紹介 時間が余れば図書観覧
15:20	観覧会	・ 参加者の作品を机に並べ観覧
15:30	終了	閉会挨拶
16:00	片付け	追加作業のある参加者は16:00まで作業



図 3-1-5. イベントの様子

表 3-1-1. ブックトークで紹介した本のリスト

タイトル	著者	出版社	出版年
海の生きものの本	シャーロット・ミルナー	合同出版	2021年
うみのたからもの	たかおゆうこ	講談社	2023年
図鑑を見ても名前がわからないのはなぜか？	須黒達巳	ベレ出版	2021年
海 ビーグル号で海たんけん	高久至	アリス館	2024年
ぼくは貝の夢を見る	盛口満	アリス館	2002年
おしゃべりな貝	盛口満	八坂書房	2018年
海からの贈物	リンドバーグ夫人	新潮社	1993年
ラルース こどもひやっか うみべの生きものの	フランソワーズ・ド・ギベール文、バンジャマン・ショ絵	少年写真新聞社	2008年
ウミウシを食べてみた	中野理枝	文一総合出版	2025年

〈スタッフの意見〉

- ・ 標本箱づくりは作業と調べもののバランスが良く、図鑑を利用して調べものしてもらいやすい。
- ・ 今年度は土曜日開催だったため、子供の習い事と重なってしまった可能性が高い。来年は日曜日の開催を検討する。

c) 足摺海底館Watch! (図 3-1-6)

高知西南豪雨災害によって甚大な被害を受けた湾内のサンゴ群集は、関係機関の協力により、豪雨災害前の状態まで回復した。一方、オニヒトデ食害など海の脅威は継続しており、資源を良好に維持し続けるためには、人が関わり続けること、つまり担い手の確保が必要。そのため、竜串湾の生物多様性の関心を高めるための屋内でモニタリングとして、足摺海底館からサンゴ・魚・無脊椎動物などをモニタリングするワークショップを行う。

日時	令和7年12月6日 9:00～14:00
場所	土佐清水市竜串 竜串ビジターセンター、足摺海底館
スタッフ	スタッフ6名（環境省土佐清水自然保護官事務所2名、黒潮生物研究所4名） 講師：目崎拓真、古井戸樹、戸篠祥、辻元ましろ
参加者	合計13名

① プログラムの概要

時間	場所	項目
9:30-9:40	竜串 VC	開会挨拶
9:40-10:30	竜串 VC	事前レクチャー
10:30-10:50	移動	竜串 VC から海底館へ徒歩移動（20分程度）
10:50-11:30	海底館	海底館の窓からモニタリング体験
11:30-11:50	海底館	海域公園について説明
11:50-12:10	移動	海底館から竜串 VC へ徒歩移動（20分程度）
12:10-12:50	竜串 VC	昼食
12:50-13:10	竜串 VC	モニタリング結果まとめ
13:10-13:30	竜串 VC	モニタリング結果をフォームに登録
13:30-14:00	竜串 VC	片付け、解散



写真1 開会挨拶



写真2 事前レクチャー



写真2 海底館でのモニタリング



写真3 窓から観察できるサンゴ



写真5 竜串周辺で見られる魚と今回見られた魚について



写真6 モニタリング結果まとめ

図 3-1-6. イベントの様子

## ② 参加者の感想

イベント終了後に行ったアンケートは9名に解答頂いた。評価は『大変良かった、良かった、物足りなかった、良くなかった』の4段階で、『大変良かった』が8人、『良かった』が1人と高評価が得られた。アンケート結果の概要としてはモニタリングを体験した感想として「シュノーケリングやダイビングのモニタリングと違い、ゆっくり観察ができ質問がしやすかった」、「研究者だけでなく、一般市民にもモニタリングすることで、環境問題を考えるきっかけになり、繰り返すことで環境変化を知ることができる」、「海の景観を気を付けてみる初めての体験ができた」等イベント趣旨に沿った好意的な感想が得られた。

## ③ まとめ

### イベント全体

- ・予定通り午前中に事前レクチャーを行った後、足摺海底館にてモニタリングを行った。
- ・モニタリングは窓ごとに、準備したモニタリングシートを利用して行った（図 3-1-7～3-1-10）。

### プログラムについて

#### ○事前レクチャー

- ・モニタリング方法等は時間をかけて指導することができた。

#### ○足摺海底館でのモニタリング

- ・予定では、数分おきに窓を交代し順次モニタリングを行う予定だったが、1つの窓に対する時間制限は設けずに行った。

#### ○モニタリング結果のまとめ

昨年度の高水温による白化で多くのサンゴが斃死しており、全ての窓で被度は5%以下となった。

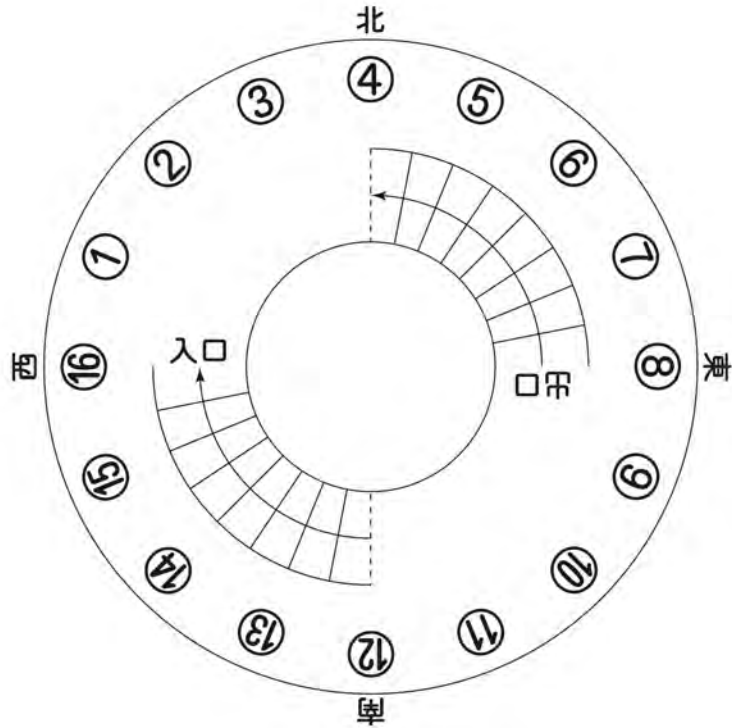


図 3-1-7. モニタリングに使用した足摺海底館の窓の位置図。



図 3-1-8. モニタリングに使用したシート。その 1



図 3-1-9. モニタリングに使用したシート。その2



図 3-1-10. モニタリングに使用したシート。その3

## 4. まとめ

### 4-1. サンゴの生育環境の現状について

本業務では継続的なモニタリングとして、前年度と同様に湾内4地点においてスポットチェック調査（前年度のモニタリングサイト1000後、2024年10月から2025年7月までのサンゴの状況変化を把握）、湾内5地点における定点写真撮影調査（固定範囲の景観変化の把握）を行った。また、物理環境のモニタリングとして水温及びSPSS（底質中懸濁物質）の計測と解析を引き続き実施した。竜串リーフチェックやモニタリングサイト1000によるスポットチェック調査などの本業務外の事業や活動においても、モニタリング情報が得られている。これらの情報を総合し、今年度の竜串湾におけるサンゴ群集の生育環境と攪乱要因の現況把握、および評価を以下に行った。

#### a) 台風等の波浪やSPSSのサンゴ群集への影響

今年度は6月に台風2号、7月に4号、5号、7号、8号、9号、8月に10号、11号、12号、9月に15号、19号、10月に22号、23号、11月に26号の計13個が日本に接近した。四国へ上陸した台風15号のみだったものの、竜串沿岸においても強い風雨と波が発生している。今年度は全ての地点で台風による大きな被害は見られなかったが、昨年度のモニタリング時に高水温で白化していた群体の多くが、今年度にかけて斃死しているのが確認された。12月にNPO法人竜串観光振興会と黒潮生物研究所が実施したリーフチェック調査や、台風後の12月に行われた環境省モニタリングサイト1000の調査でも台風の被害は軽微だったものの、白化や白化による斃死が散見された。

なお、高知県气象台のデータによると竜串湾に近い三崎の測点で2025年度の降水量は過去70年間の比較では少なく、例年と比べて降水量の多い月は5、7月でそれぞれ平年比165.1%、103.0%を記録した。また1月、4月、8月、11月、12月の降水量は平年と比較し大きく低下し、それぞれ24.7%、41.8%、37.5%、34.5%、45.8%を記録した。

#### b) 水温の影響

今年度の年間平均水温は爪白で22.2℃、見残しで22.4℃（両地点共に総平均から+0.3℃）となった。最高水温は爪白で29.7℃、見残しで30.3℃を記録し、両地点共に平年と比べて+0.3℃となった。最低水温は爪白で15.1℃、見残しで15.0℃を記録し、平年と比べて爪白で-0.1℃、見残しで+0.3℃となった。今年度は高水温による白化が確認されなかったが、昨年度の白化による斃死が多く確認され、7月の調査において被度の低下が確認されたが、12月の調査では被度が維持・または回復傾向となった。

#### 4-2. 食害生物の影響

竜串湾及びその周辺海域では 2000 年頃からオニヒトデの分布密度の増加が見られるようになり、2004 年以降大発生状況となっている。2021 年ごろからオニヒトデの駆除個体数は減少傾向にあり、昨年度業務での駆除においても前半は駆除個体数が少なかったものの、後半になって小さなオニヒトデを中心に駆除個体数が増加傾向となった。今年度 7 月に行ったモニタリング調査時のオニヒトデ観察数は全地点で 0 個体であり、スポットチェック法によるサンゴ礁調査マニュアルによると通常分布であった。しかし、2025 年 12 月に行われたモニタリングサイト 1000 では、大碓で 5 個体/15 分、爪白で 3 個体/15 分のオニヒトデが確認され、発生状況として多い（要注意）～準大発生となり、増加傾向が見られた。

今年度の本業務におけるオニヒトデ駆除個体数は 558 個体、本業務以外で駆除したものも合計すると 908 個体であった。昨年度のオニヒトデ総駆除個体数は 570 個体であり、2018 年度から駆除個体数は小康状態にあったが、モニタリングサイト 1000 のスポットチェックによる結果や、竜串湾におけるオニヒトデ駆除数から、本海域のオニヒトデの生息密度は増加傾向にあることが示唆され（図 4-2-1）、20 cm 以下の小さなオニヒトデも増加しているため（表 2-4-2）、今後もオニヒトデの動向には注意が必要である。

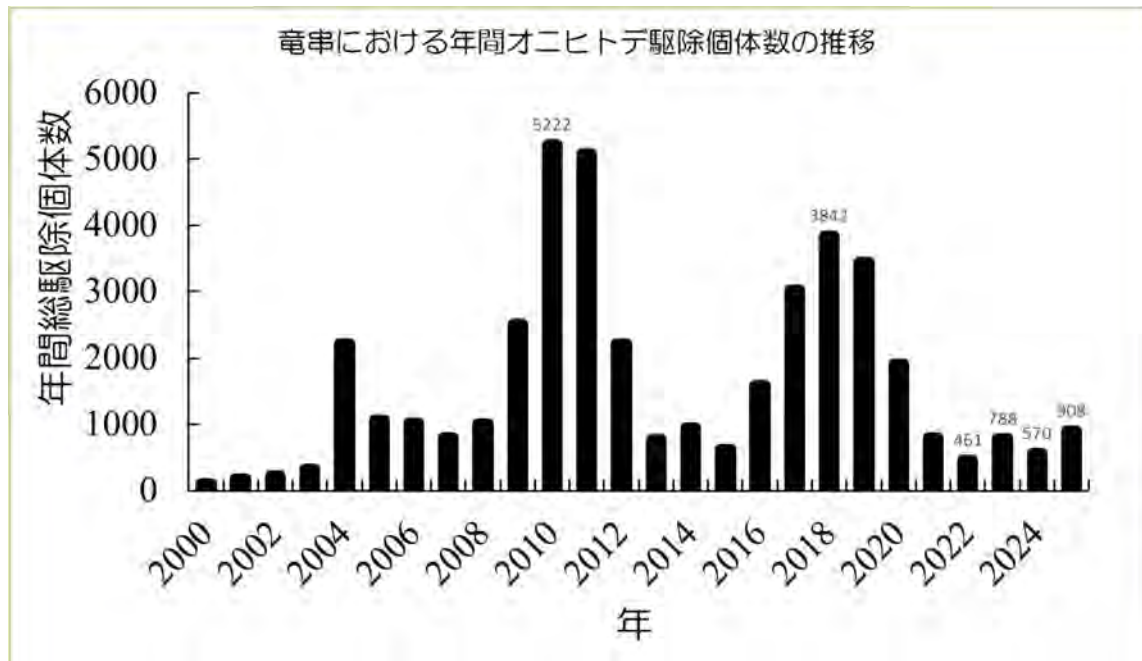


図 4-2-1. 竜串湾におけるオニヒトデ年間駆除数の推移

#### 今年度の竜串湾のサンゴの状況

今年度の竜串湾では、昨年度の高水温の影響と考えられる浅場の卓状ミドリイシ類で斃死が目立ち、被度低下が各所で確認された。爪白は被度 20%（昨年 10 月 30%）、竜串西は 10%（同 30%）、大碓南は 20%（同 30%）3 地点とも浅場のサンゴが斃死し被度が低下した一方、深場の群集は健全であった。また、オニヒトデの駆除数も増加傾向のため、今後も継続的なモニタリングと食害生物への対策が必要である。

#### 4-3. 保全の担い手育成のための取組

令和元年度までの事業では、リーフチェック調査のための勉強会、スポットチェック調査、磯の生き物調べなど、モニタリング体制の構築だけでなく、モニタリング情報の蓄積と継続的な取り組みを実施するための協力体制づくりを行ってきた。その中でリーフチェック調査に関しては、地元主体でできる保全体制のひとつとして定着してきた。一方で、リーフチェック調査は主にダイバーで行う調査手法のため、参加には一定のスキルが必要であり、参加者が限定される傾向があった。

そこで、平成30年度からは、次世代の保全の担い手確保や育成に主眼をおいた目的に切り替え、室内イベントや、サンゴモニタリングイベントを実施しており、今年度も継続して行った（「竜串海さんぽ」、「海辺の宝箱づくり」）。また、今年はシュノーケルやダイビングができない方も参加できるモニタリングとして、「足摺海底館 Watch！」の実施を行った。平成30年度から継続して行っているモニタリングイベント「竜串海さんぽ」において、今年度では参加人数は18名（+教員4名）となり、海中の映像を使い、サンゴや海藻、魚類等のモニタリングの疑似体験を行った後、竜串湾桜浜にてシュノーケリングによるモニタリングを行った。アンケート結果は、5段階評価の総合満足度5が19人、総合満足度4が3人（回答者は22名）と回答者全てから高評価を得られた。また、2017年度から継続している室内イベント「海辺の宝箱づくり」では、足摺宇和海国立公園内の海岸から漂着物を集めたものから、その種類を調べ、標本箱の作製を行った。参加人数は11名で、幅広い年齢層の参加者に対して、竜串の海の魅力や保全活動を伝えることができ、実際に竜串湾に足を運んでもらうきっかけとなった。今年度初実施となった「足摺海底館 Watch！」では、参加人数は13名となった。終了後に行ったアンケートでは9名に解答頂き『大変良かった』が8人、『良かった』が1人と高評価が得られことに加え、シュノーケリングやダイビングでのモニタリングとは異なる利点を回答いただき、イベント趣旨に合った展開ができたと考えられる。

以上の通り、今後の保全活動の担い手の確保、育成、そこから地域の保全活動体制への参加にどのようにつなげていくかを検討する中で、令和3年度から、海への興味をもつきっかけや保全活動参加への動機づくりに主眼を置いたイベントを実施してきた。これに加え、職業選択等を意識する年代へのアプローチとして高校生以上を主なターゲットにしたイベントを今後も継続していくことで効果的に担い手の確保、育成を行うことができると考えられる。